

新学習指導要領で求められる学力及び指導方法 の在り方に関する研究（最終報告）

新しい学習指導要領が告示された。この学習指導要領を正しく理解し、実践に向けての課題を整理することが喫緊の課題となっている。今年度の研究では、愛知県内の小中学校に対して新学習指導要領に関するアンケート調査を行った。アンケート調査の結果分析と「活用」を意識した授業づくりについて研究を進めた。研究を進める中で、「習得」と「活用」のつながりを考えた単元づくりと「資料を読み取る」「発表する」「学習を振り返る」といった学習プロセスを大切に1時間の授業づくりを進めていくことが大切であり、授業改善の指針となることが理解できた。

<検索用キーワード> 確かな学力に基づく生きる力 習得 活用 活用を意識した授業づくり
学習プロセス アンケート調査 授業改善の指針

研究会委員

総合教育センター	研究指導主事	稲吉 宣夫（平成20, 21年度）
総合教育センター	研究指導主事	坂田 貴仙（平成20, 21年度）
総合教育センター	研究指導主事	宮崎 千智（平成21年度）
総合教育センター	研究指導主事（現教科研究室長）	川澄 誠（平成20年度）
総合教育センター	研究指導主事	貝沼 眞幸（平成20, 21年度）
総合教育センター	研究指導主事	中神 和也（平成20, 21年度）
総合教育センター	研究指導主事	加藤 文彦（平成21年度）
総合教育センター	研究指導主事	加藤 応子（平成20年度）
総合教育センター	研究指導主事	平手ゆり子（平成20, 21年度）
総合教育センター	経営研究室長	浅井 厚視（平成20, 21年度主務者）

研究顧問

名城大学教職センター	准教授	平山 勉（平成20, 21年度）
稲沢市立稲沢中学校	校長	清水 茂（平成21年度）

1 はじめに

「変えてはならないものを変えない冷静さと 変えなければならないものを変える勇気と それを識別する英知を しっかり生かしていくべきだ」（『ニーバーの祈り』より）。新しい学習指導要領が告示されるたびに、教育委員会や学校では何を変えないで継続し、何を変えて断絶するのかという判断を迫られる。判断していくための指針が分かれば有難いと思う。

本研究では学習指導要領の歴史的な経緯を踏まえた上で、キーワードを整理し、新学習指導要領で求められる学力と指導方法、授業改善を進めていくための指針について考えた。

2 研究の目的

教育基本法が 60 年ぶりに改正され「教育の目標」（第 2 条）が規定されたことを受け、学校教育法に義務教育の目標が定められた。ここで示された教育の基本理念は、平成 20 年 3 月告示の新学習指導要領によって明確となり、「生きる力」「確かな学力」の育成が求められている。

学校教育法では身に付けさせたい学力を「基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力」（第 30 条第 2 項）と具体的に定めた。これらの改正を受けて、新学習指導要領では「確かな学力」に基づく「生きる力」を各教科・領域で具現化していくことが求められている。

本研究の目的は、活用を意識した授業づくり（①「習得」した知識・技能を「活用」し、さらに「習得」を繰り返すスパイラルな展開②「活用」の中で知識・技能の「習得」を図る逆向きの展開）を意図的・計画的に行う中で、授業改善を進めていくための指針について検討することである。

3 研究の方法

- (1) 当センター所員による所内研究として進めた。名城大学教職センターの平山勉准教授より、助言をいただいた。
- (2) 「学習指導要領の変遷」など歴史的経緯から、新学習指導要領の趣旨と求められる学力について研究を深めた。
- (3) 小学校 5 教科（国語・算数・社会・理科・図工）、中学校 5 教科（国語・数学・社会・理科・美術）、高等学校 2 教科（国語・数学）を研究対象とし、小中高 12 年間を視野に入れた研究とした。
- (4) 県内公立小中学校（名古屋市立を除く）で新学習指導要領に関するアンケートを悉皆調査として実施した。新学習指導要領の問題点や「活用」を意識した授業づくりを通して、現状の問題点や課題について把握した。
- (5) 研究対象の教科に関して、「活用」を意識した授業づくりを進めるために学習指導案を作成し、具体的な学力や指導方法の在り方について研究し、授業改善の指針について検討した。
- (6) 高等学校の新学習指導要領の国語と数学の主な改善点についても分析した。

4 研究の内容

(1) 学習指導要領の変遷

昭和 22 年、23 年度に（小 22 年度 中 22 年度 高 23 年度）、アメリカの course of study を参考に「試案」としての学習指導要領が示された。社会科・家庭科・自由研究が新設され、子供の経験や関心に基づく教科課程、単元づくりが行われた。

昭和 26 年度の改訂（小・中・高共に 26 年度実施）では、にわかに作成した第一回目のカリキュラムを日本の学校に合うよう、「教科課程」から「教育課程」へ、「自由研究」から「教科以外の活動」（小学校）「特別教育活動」（中学校）へ、単元内容をアメリカの course of study の直訳ではなく、子供の実態に即した学習内容へと修正した。経験主義に基づく単元づくりの充実を目指すこととなった。

道徳教育に関しては、教科・領域を特設するのではなく、学校教育のあらゆる機会に行う道徳教育が展開された。生活経験に基づく社会科を進める文部省に対して、学者・教育研究団体からは「這い回る社会科」という批判がなされた。さらに、子供たちの「読み」「書き」能力への不満から低学力論争が起り、基礎・基本の徹底や教科の系統性を重要視する動きが顕著となった。これらの動きは、最近の

ゆとり教育とそれに対する批判の動きと重なる点が多い。また、戦争体験に基づく無国籍な世界市民の育成が目指され、郷土や国を愛する心を十分育てる教育が行われなかった。

昭和30年度の改訂では、単に社会科の改編だけが行われ、地理・歴史の系統的な学習が重視された。学習指導要領から「試案」の文字が削除され、その年より実施された。

昭和33年度～36年度の改訂（小36年度実施 中37年度実施 高38年度実施）では「学習指導要領は教育課程の基準である」という性格が明確にされた。道徳の時間が特設され、道徳的心情や道徳的価値を理解するための道徳教育が始まった。社会科では、昭和30年度の改訂に引き続き、系統的な歴史・地理学習となった。基礎学力を身に付けることや科学技術教育の向上に基づく教科の学習が進められ、子供の実態から教科の論理を優先した学習内容が展開されることとなった。

昭和43年度～45年度の改訂（小46年度実施 中47年度実施 高48年度実施）では、スパートニック・ショックを受けて、社会の進展に伴う、教育内容の現代化が進められた。特に理数教育の重視が声高に叫ばれることになった。しかし、授業時間数が最大となった上に、乱塾・受験戦争など、子供を取り巻く競争原理が過熱化した。そのため競争についていけなくなった子供たちの中には、問題行動を起こしたり逆に学校不適應を起こしたりするようになった者もあった。この現象が低年齢化したため、社会問題となり、学校制度や学習内容の見直しが迫られることとなった。

このような社会的要請をうけて、昭和52年、53年度の改訂（小55年度実施 中56年度実施 高57年度実施）では、学習負担の適正化が目指されることとなった。各教科の目標や内容を中核的事項に絞り込むことになった。学習内容が軽減され、学校裁量時間を新設し、特色ある学校づくりが進められた。教科の論理から児童生徒の実態重視へ基軸を転換することとなった。また、道徳教育では、地域・家庭・学校の連携の大切さが力説されるようになり、価値項目の徹底とともに、高度経済成長以後、力を失った家庭や地域に足場を置いた教育実践を行おうとした。

平成元年度の改訂（小4年度実施 中5年度実施 高6年度実施）では、従来「知識・理解・技能」に対して、副次的に置かれてきた「関心・意欲・態度」を学力の中核に位置付ける「新しい学力観」が強く唱導されることとなった。また、体験的な学習活動が重視され、生活科が新設された。

平成10年度～11年度の改訂（小中14年度実施 高15年度実施）では、詰め込み主義に抗して誕生した「ゆとり教育」の集大成が図られた。その中核として、自ら学び自ら考える「生きる力」の育成を目指して「総合的な学習の時間」が新設された。しかし、改訂されて間もなく、基礎・基本の不足を内容とした学力不足が深刻な問題となり、文部科学大臣による「確かな学力」向上のための緊急アピールが出されることとなった。

この流れを受けて、平成20年3月に小・中学校（小23年度実施 中24年度実施）平成21年3月に高等学校（高25年度実施）について告示された改訂では、「確かな学力」が「生きる力」の中核に位置付けられた。「知識基盤社会」「知のグローバル化が進展する」時代において、基礎的な知識・技能の習得とそれを活用した思考力・判断力・表現力の育成を重視した教育課程の編成が喫緊の課題となっている。今回の改訂内容はOECD（経済協力開発機構）のDeSeCo（キー・コンピテンシーの定義と選択）プロジェクトのPIISA（国際学力、国際学習到達度）調査に影響を受けており、カリキュラム編成の原理が「児童生徒中心」より「教科」の方へ軸が振れ、基礎・基本の充実が強く求められる内容となった。

また、教育基本法の改正を受けて、様々な教科・領域で、我が国の伝統文化の理解を重んじ、郷土や国に対する愛情を育てることが目指されることとなった。

(2) 「確かな学力」に基づく「生きる力」

確かな学力の形成は「言語活動の充実」「理数教育の重視」「伝統文化の継承」「体験活動の重視」「小学校外国語活動の実施」の中で重点的に行われ、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「習得した知識・技能を活用した思考力・判断力・表現力などの育成」「学習意欲の向上や学習習慣の確立」を目指している。確かな学力は、知識・技能と生活を結び付けたり、知識・技能と思考力・判断力・表現力などの力と関連付けたりすることができる力であり、日常生活で生きて働く力である。学力には、目に見える学力（計測可能）と目に見えにくい学力（計測しにくい）とほとんど見えない学力とがあるが、知識・理解は、はっきり目に見える学力であり、思考力・判断力・表現力などは目に見えにくい学力である。

新学習指導要領の「生きる力」は、この「確かな学力」と「豊かな心」「健やかな体」との総体の側面を言う。新しい知識や情報や技術が氾濫する知識基盤社会において、「生きる力」は将来の職業や生活を見通し、社会で自立的に生きるためにますます必要な力であると言える。

(3) 「習得」「活用」「探究」とは

新学習指導要領では「習得」「活用」「探究」の三つのキーワードが示されており、これらを基に新学習指導要領の内容を整理した。これらは、教師が指導を進める学習プロセス、学習類型（子供の側からは学習活動）を意味する用語と考える。

本研究ではこの三つの用語を峻別するつもりはない。これらの用語はお互い重なり、補い合い、双方向性をもつ言葉であると考え。その上で、「習得」とは基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるように、反復練習を中心にして指導を進めることであり、また、「活用」とは習得した基礎的な知識・技能を実際に用いて課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力・その他の能力をはぐくむことと定義したい。さらに「探究」は教科で身に付けた「習得」「活用」の力を基にして、教科の発展学習や総合的な学習の時間で、問題（課題）を見付け、見通し、解決していく力を目指すものであり、自己の学びや生き方を振り返る力を身に付けるための学習と考えたい。

当然「活用」することによって、基礎的な知識・技能を「習得」することもありうるし、「探究」の中で「活用」「習得」の力を身に付けることもありうる。しかし、新学習指導要領がねらっている「活用」は、従来イベント的に偏っていた総合的な学習の時間を教科の力を基にした質の高い探究活動にしていくための力であり、教科横断的・教科発展的な総合的な学習の時間の在り方を目指す力と考える。

(4) 「習得」と「活用」の関係と指導方法の在り方

本研究では、「習得」「活用」の関係について考えを深め、この二つの関係（つながり）に基づく具体的な学習活動を考えていかねばならないと考え、研究を進めた。

「習得」は知識や技能を身に付けることであり、覚えることであるが、覚えたことや身に付けたことを活用までできて、はじめて習得したと言えるのかもしれない。

「活用」は「書く」「考える」「話す」「説明する」「聴く」場面で、身に付けた知識や技能を使い、思考力・判断力・表現力を働かせることである。

「習得」と「活用」との関係について次にあげるかかわりがあると考え。

第一に、「習得」と「活用」が単に「習得」から「活用」へと一方向だけに高まるのではなく、スパイラルに「習得」から「活用」へ、さらに「習得」へと行きつ戻りつ、らせん階段を登っていくような高まりのある学習活動の展開を考えた。（「1－① スパイラルな展開」）

小学校4年の社会科で都道府県の名前と位置を暗記する。この知識を活用して、5年の日本の農業の学習では、日本地図のみかんやりんごの生産高の多い都道府県に色を塗る。時にはフリーハンドで日本地図をかいたものを使用してもよい。色を塗った地図を見て、日本の農業の傾向や特色について自分の言葉でまとめてみる。この知識を覚え、次の水産業の学習ではこれを活用して、日本の水産業の特色や工夫について予想をたてるのである。こういった学習活動の展開を「習得」と「活用」とのスパイラルな展開と呼ぶことにした。

第二に、「習得」と「活用」とを分けることになじまない教科がある。そういった教科では学習活動を展開する中で、知らず知らずのうちに知識・技能の習得が図られるのである。「活用」の中で「習得」が行われると言った方が正しいのかもしれない。（「1-② 逆向きの展開」）

小学校1年の音楽科「曲の中からおもしろい音をみつけよう」では、教材曲を鑑賞した後で、身近にある楽器などを用いて、聴き取った音を探したり、作ったりする活動を行う。曲の雰囲気や変化に合わせて、身体を動かしたり、言葉で発表したりする。このような活動を通して、音を見付けるための知識や技能さらに思考力や表現力を育てるのである。これは、特に図工・美術、体育・保健体育、技術・家庭、生活科などに多く見られ、「活用」から「習得」への逆向きの展開と呼ぶことができる。

さらに、「習得」した知識・技能を「活用」する場面が、教科の学習場面ではおさまらず、総合的な学習の時間や日常生活の場面で使用されることがある。教科の発展学習や総合的な学習の時間、さらに日常生活の実践を通して、つまり「探究」の段階で、再び知識・技能の「習得」が図られ、思考力・判断力・表現力などの活用する力が身に付く展開である。

小学校6年の総合的な学習の時間で、「ふるさと学習」を行い、郷土の人物について各自がテーマをもって探究する。この学習で一人調べをしたり、発表のためのポスターを制作したりするためには、資料を活用する力・文章を書き表す力・説明や発表する力等が必要となってくる。また社会科の歴史の知識があった方がまとめやすいだろう。このように「探究」活動を展開することで多くの知識を「習得」し、様々なことを考え、表現し、妥当な結論を導く「活用」を行い、能動的な知性が養われる学習展開が考えられる。

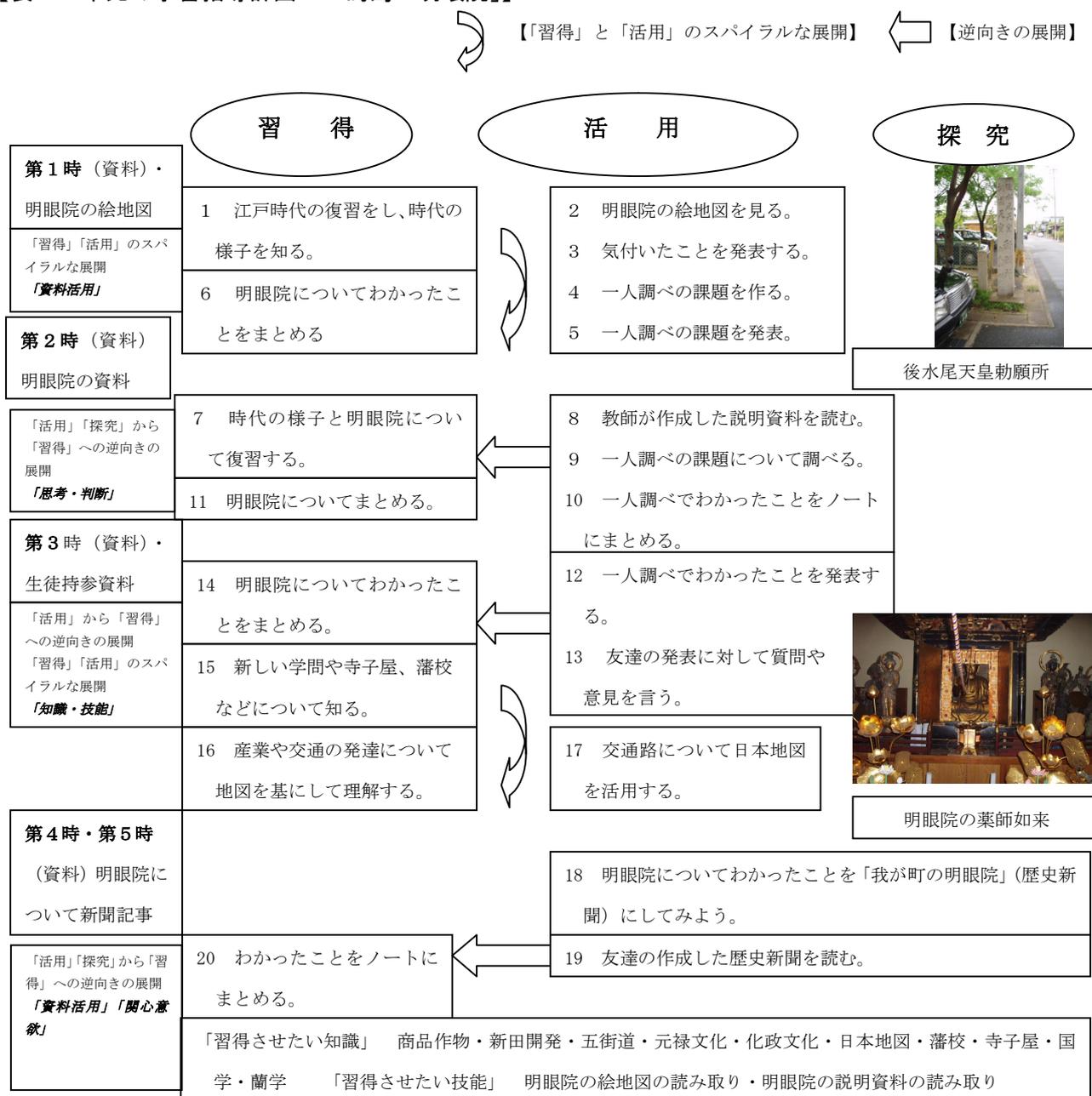
(5) 単元の学習指導計画における「習得」と「活用」の関係

単元の学習指導計画を立てる中で、「習得」と「活用」の関係が、どのようなかわりとなるかを考察した。ここでは具体例として、中学校2年の社会科歴史的分野(4)近世の日本 ウ「産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを通して、町人文化が都市に形成されたことや各地方の生活文化が生まれたことを理解させる」（「新しい産業・文化・学問の発達」）の単元で、愛知県海部郡大治町にある「馬島・明眼院」を教材として取り上げた実践を紹介する。

「馬島・明眼院」は海部郡大治町馬島にある天台宗の名刹で南北朝時代から明治時代を通じて、500年にわたって、日本の代表的な眼科の病院であった。常に治療方法の研究を重ね、清眼僧都以来実に様々な治療を実施してきた。特に江戸時代の末には、円如が長崎のシーボルトのもとでオランダ医学を学び、和漢蘭眼科を折衷したものとなっていった。「明眼院」で行われたり、全国に広められたりした眼科の治療方法を馬島流眼科と言っている。

本来死んだ人を埋葬する寺院が、生きている人間を大切にする病院であり、現在の大学病院以上の日本を代表する眼科の病院であったということは驚くべき事実である。仏の道を医学による治療で説いたのであろうか。実際の眼科の治療方法と薬師如来に対する信仰心（精神療法）とが結び付き、効果を

【表1 単元の学習指導計画 「馬島・明眼院」】



あげていたようである。円山応挙・本居宣長など多数の有名人が訪れた。

ところが明治7年(1874)「医師開業の試業規則」が出され、病院及び診療所以外での治療が禁止されることとなる。近代化を急ぐ明治政府にとっては、制度として病院による治療を強制することが西洋に追いつく方法であり、薬師如来に対する信仰心などまやかしにすぎなかったのである。どれだけ病気を治すことができたとか、患者や馬島周辺の人たちにとってありがたい寺院だったとかということは、明治政府にとっては関係なかったのである。絶えず時代の最先端の医学を担ってきた「明眼院」が近代化を阻害する障害物となったのは、歴史の皮肉であろうか。こうして「明眼院」は近代化政策の犠牲として、歴史の中に取り残されることとなる。

教師の作成した「馬島・明眼院」の説明資料を基にして、生徒は一人調べを行う。その学習活動を通して「習得」「活用」がスパイラルな展開となったり、「活用」から「習得」への逆向きの展開となったり、さらに「探究」から「活用」「習得」への展開が見られたりする単元を考えた。

(6) 1時間の学習指導案における「習得」と「活用」の関係

1時間の授業の中で「習得」と「活用」のかかわりについて、前述した単元「馬島・明眼院」の第1時の展開を具体例として取り上げて考察した。

【表2 1時間の学習指導案「馬島・明眼院」第1時】

【「習得」と「活用」のスパイラルな展開】

段階 分	学習活動	指導上の留意点
習得 5	1-1 江戸時代の復習をする。 【知識】	<ul style="list-style-type: none"> ・大切な年号、五街道、元禄・化政文化について発表させる。 ・人物、五街道は漢字で書くよう指導する。
習得 5	1-2 江戸時代の様子を想像する。 【技能】	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の江戸時代のイメージを発表する。・なぜそう思ったのか、根拠についても一言発表させたい。
習得 5	2 明眼院の絵地図を見る。 【資料活用】	<ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことをノートに書くよう指示する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・絵地図を活用して、一人調べの課題をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「今よりも大きい」「〇〇坊がたくさんある」「宿屋がある」「家や街道がある」など気付いたことをまとめさせたい。
活用 20	3 明眼院の絵地図を見て、気付いたことを発表する。 【資料活用・思考】	<ul style="list-style-type: none"> ・絵地図のどこからわかったか、根拠を一言発表させたい。 ・既習した「国学・蘭学」「化政文化」「街道」などについてもかかわりに気付かせ、発表させたい。 ・「目に見えること」「目に見えないこと」にわかる内容を分け、現在の姿と比べて発表させたい。 ・明眼院に対する江戸時代の馬嶋村の人たちの気持ちを考えて発表させたい。 ・友達のよい気付きについて、ノートにメモをとらせたい。
	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 10px;">現在の明眼院</div>	
活用 5	4 明眼院について一人調べの課題をつくる。 【資料活用・思考】	<ul style="list-style-type: none"> ・一人調べをしていきたい課題をノートに書かせる。 ・どんな資料で調べたらよいかを考えさせたい。
活用 5	5 一人調べの課題について発表する。 【思考】	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のよい課題について、ノートにメモをとらせたい。 ・一人調べでどの課題をどの順番で調べていくかを定める。
習得 5	6 明眼院についてわかったことをまとめる。 【知識】	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の授業を振り返り、わかったことをノートにまとめる。 ・次時の一人調べの計画を考えさせたい。

習得した知識・技能を基にした授業を考えたい。例えば、前掲の学習指導案では、導入(学習活動1-1 1-2)において前時で習得した江戸時代の知識を復習する。その知識を基にして江戸時代のイメージをもつ。次の展開(学習活動2, 3)において、明眼院の絵地図を基に気付いたことをノートに書き、発表する。これは資料を読み取り、活用する内容となっている。展開の後半(学習活動4, 5)ではさらに自分が選んだ課題について一人調べを行い、ノートを見ながら、調べた内容を発表する。学習のまとめ(学習活動6)では、分かったことをノートにまとめ、知識の習得を図る内容となっている。このように1時間の授業の中で、「習得」を基に「活用」が行われ、結果として新たな知識・技能の習得が図られることとなっている。

(7) 県内小中学校における新学習指導要領に関するアンケート調査

平成21年7月当センターでは、県内の公立小中学校(名古屋市を除く1,026校)を対象として、新

学習指導要領への対応と「活用」に関する学習活動についてアンケート調査を実施した。すべての学校から回答を得た。このアンケートは、思考力・判断力・表現力を育てるため、各学校がどのような学習方法や指導方法が有効と考えているかについて実態調査を行ったものである。質問項目の内、特徴的な傾向について以下に述べる。他の結果については資料1 (P.14～) を参照されたい。

ア 「確かな学力を育てるために『活用』という学習活動は大切か」について

小学校で712校(723校中)、中学校で293校(303校中)小中全体の95%以上が活用は大切な学習活動と回答した。また「活用」を意識した現職教育なり授業改善なりを進めようと「考えている」学校は379校(1,026校中)、「現在検討中」は607校(1,026校中)あり、合わせて全体の96.1%になった。

イ 『活用』とはどのような学習活動か』について

「活用をどのような活動と考えているか」という問いに対して、小学校では「報告書や学習のまとめを作成する」(小259校 中86校)、中学校では「資料を読み取る」(小237校 中110校)が1位となり、この二つの項目で回答全体の7割に迫っている。文科省の「活用」についての例示もあつてか、これらを活用を意識した学習活動と考えていることが分かる。また「どのような場面で活用するか」については、「学んだことを他の教科や領域に役立てる」(小281校)、「日常生活に役立てる」(中120校)となり、この二つの項目で全体の7割程度の回答があつた。

ウ 『活用』を意識した授業改善を進めるに当たって、『単元計画の作成時』『1時間の授業』で重要なことは何か』について

活用を意識した授業改善を進めるに当たって、単元計画を作成する時に大切なことは「習得・活用・探究のつながり」を挙げる学校が、小学校では423校、中学校では154校と小中全体の半分を超えていた。次いで「子供たちの実態」「指導の手だて」が続いた。(図1P.9) 子供たちの実態を踏まえ、「習得・活用・探究」のつながりを考えて、指導の手だてを考えていくということであろうか。

1時間の授業で大切なことは、小中学校共に「話合いの場面」「資料(図・表・グラフ・文章)の読み取り場面」「学習の振り返り(シェアリング)場面」の順番で、この三つで小中全体の7割を超えている。(図2P.9) 活用を意識した1時間の授業とは、「資料等の読み取り」で得た知識や考えを基に「話合い」を行う。教師は話合いや学習活動の振り返りの手だてを考えていかなければならない。これらの学習活動のプロセスを大切にしたい授業改善を進めていくことと考える。

エ 「(平成21年度及び22年度に貴校では)『新しい学習指導要領』の理解を図るために、研修若しくは伝達を行いましたか」(平成21年7月調査実施)

小中学校共に、新学習指導要領の理解を図るための校内の研修会が、90%を超えて実施されている。小学校の方が校内研修の実施状況の割合が中学校に比べて若干高い。その結果、小学校では、学校の条件面では「学習内容の移行」「時間数・時間割」「教材教具の整備」、学習内容では「外国語活動」「言語活動の充実」を問題としている学校が多い。中学校では学校の条件面では「学習内容の移行」「時間数・時間割」「指導・評価」、学習内容で「言語活動の充実」「理数教育」を問題としている学校が多かった。

オ 「(貴校では)全国学力学習状況調査を基に、どのような授業改善に取り組みたいですか」

全国学力学習状況調査を基にどのような授業改善に取り組みたいかでは、小学校では「話合い」「単元の指導計画」「資料の読み取り」、中学校では「話合い」「単元の指導計画」「子供の見方」が挙げられた。資料の読み取りを基にした話合い場面を行う指導計画の作成が大切と回答した学校が多い。

以上のように学校現場では、新学習指導要領においても全国学力学習状況調査においても、「資料を読み取る」「話合い」「学習の振り返り」といった学習プロセスを大切にしたい授業改善を強く意識してい

ることが理解できた。

図1「単元計画の作成時」で重要なこと(校)

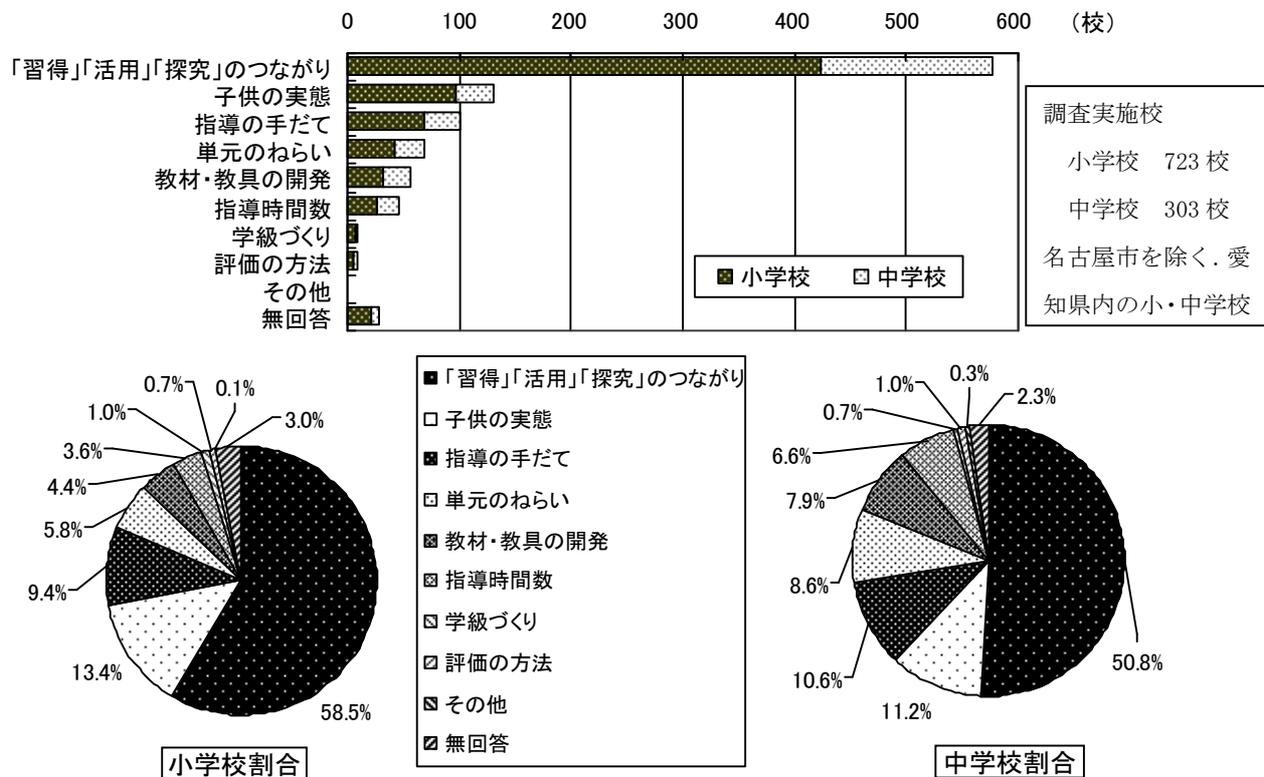
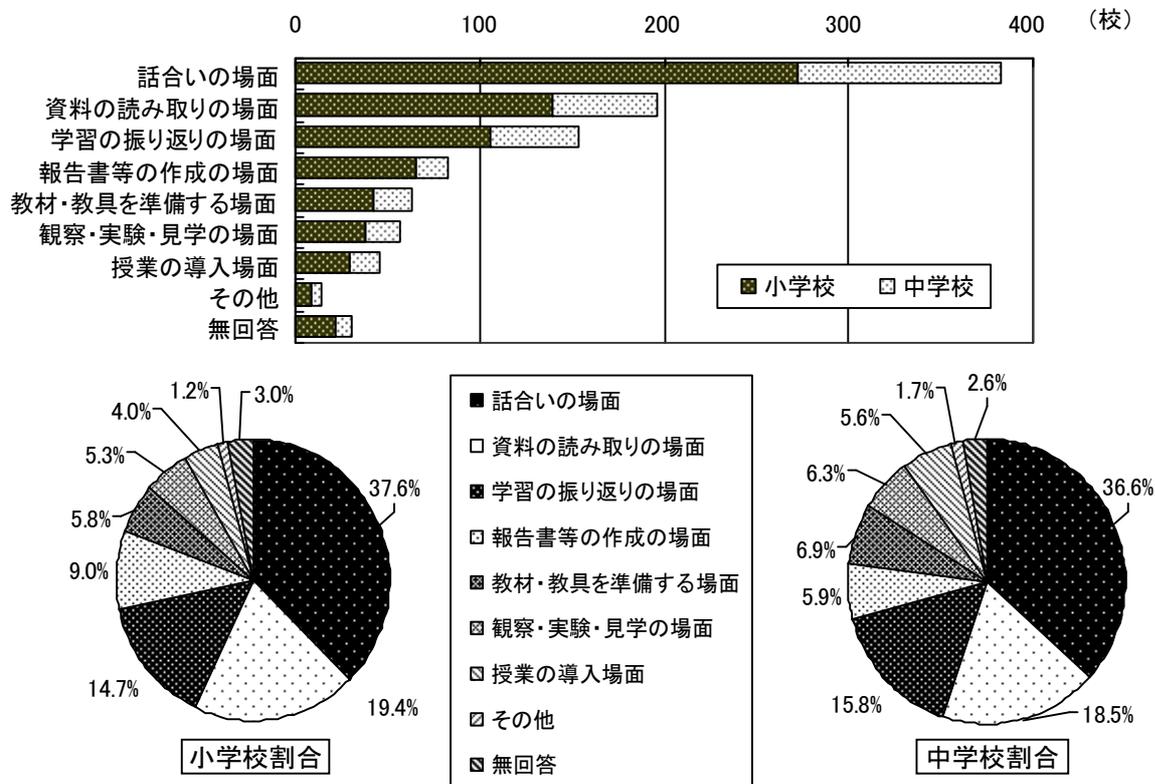


図2「1時間の授業」で重要なこと(校)



(8) 新学習指導要領で求められる「活用を意識した授業」とは

三つの学習活動である「習得」「活用」「探究」の中で、特に「活用」を意識した授業について考えてみたい。「活用」を意識した授業の具体的な学習活動としては「(ア)体験から感じ取ったことを言葉や非言語で表現する。歌・絵・身体表現などの方法で表現する。(イ)実験・観察・見学など事実を正確に記述・報告する。記録を丁寧に行う。(ウ)分かったことやまとめたことについて説明活動を行う。説明する中で、言葉を置き換え、理解を深める。(エ)グラフや図表などを用い、課題についてレポートをまとめる。コンピュータを駆使し、分かりやすい作品に仕上げる。(オ)課題や作品作りについて、仮説や見通しを立て実践し、評価する。仮説を検証したり、構想を練って創作活動をしたりする。(カ)学習の振り返りを行い、互いの考え方を伝え合う。ディベートやブレイン・ストーミングなどの発表方法やシェアリングの仕方についても工夫する」(注1)の6点が挙げられる。

授業改善を進めていくためには、「1「習得」と「活用」のつながりを考えた単元構成 2 学習プロセスを大切にした1時間の授業展開 3 「習得」と「活用」を踏まえた評価」の3点が大切な指針となることがわかってきた。その上で、次のような具体的な手だてを考えた。

2-① 子供たちを理解し、切実な教材を提示するための手だて 【教材開発・子供のカルテ】

【表3 学習プロセスを大切にした1時間の学習指導案「15年戦争と国民生活」】

学習プロセス	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
学習の振り返り 2-④	1 本時までの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争の広がり、戦争が起きた原因について思い出させる。(町内の戦没者が亡くなった場所の地図) ・「15年戦争のときの国民の苦しみ」「韓国の人たちの苦しみ」であることに気付かせる。
	2 学習課題について知る。	
資料の読み取り 2-② 発表 2-③	3 聞き取り文集「戦争」を基にして、15年戦争のときの国民の苦しみについて話し合う。 (1) 戦争へ行った人の苦しみ (2) 戦争へ行かなかった人の苦しみ	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のうちに、聞き取り文集「戦争」を基にしてノートに書かせておく。このノートを読み直してから発表させる。自分の聞き取りだけでなく、友達の聞き取りを基に考えさせたい。 ・分かった箇所にラインマーカーを引き、それを基にして文章にまとめさせる。疑問点については？を付けさせる。
学習の振り返り 2-④	4 話し合いから、国民の苦しみについて、分かったことについてノートに書く。	
資料の読み取り 2-② 発表 2-③ 学習の振り返り 2-④	5 「日本に連れてこられた韓国人たち」のグラフを見て、韓国人の苦しみについて、予想をし、発表する。 (1) 兵隊として戦争に行った (2) 工場や土木工事で働いた (3) たくさんの韓国人の方が亡くなった	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国がこの当時日本の植民地であったことを思い出させる。 ・グラフから、韓国人たちがたくさん日本に連れられてきたことについて理解させ、なぜ連れられてきたかを予想させる。 ・聞き取り文集「戦争」から分かる箇所に注目させたい。(土木工事や工場で働かされていた箇所) ・グラフから大勢の方が亡くなった事実について気付かせたい。
資料の読み取り 2-②	6 聞き取り文集「戦争」から、韓国人たちの苦しみについて分かったことをノートに書く。	
発表 2-③ 学習の振り返り	7 本時で学習したことについて、分かったことについて発表し、ノートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・「15年戦争のときの国民の苦しみ」「韓国人たちの苦しみ」について、分かったことについて発表させ、その後でノートにまとめさせる。

- 2-④ 「資料を読み取る」ための手だて 【ワークシートなど】
 - 2-③ 「話し合い」の手だて 【ディベート・ポスターセッション・ロールプレイなど】
 - 2-④ 学習の振り返りと感想交流の手だて 【シェアリングなど】
 - 3 「習得」と「活用」を踏まえた評価（今後の検討課題） 【座席表・ポートフォリオなど】
- 「(以下(9)では番号で表示)」などが有効な指針であることが分かってきた。

表3は【学習プロセスを大切にしたい1時間の学習指導案】の例で、小学校6年社会科の内容2-ケ「日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦」を取り上げた。この単元では夏休みの課題であった「戦争」にかかわる聞き取り学習の結果を文集としてまとめた。子供たちは身近なお年寄りや歴史民俗資料館の学芸員、ボランティアから聞き取りを行った。その文集と「美和町出身の戦没者が亡くなった場所の地図」(教師自作)「在日韓国人・朝鮮人の人数推移グラフ」を資料として取り上げ、15年戦争に行った人・戦争には行かなかった人・韓国、朝鮮の人の苦しみについて考える展開とした。この学習指導案の展開では「活用を意識した授業」として学習プロセスを大切にすることを考えている。

(9)授業改善の指針と「活用」を意識した実践例

【表4 「活用」を意識した授業改善のための指針 試案】

1 「習得」と「活用」のつながりを考えた単元構成
1-① スパイラルな展開
1-② 逆向きの展開 1-①と比べて連続性は少ない
2 学習プロセスを大切にしたい1時間の授業展開
2-① 知識・技能の習得を図るため子供にとって切実な課題や教材と取り組ませること【教材開発・子供のカルテ】
2-② 「資料を読み取る」ための手だて 【ワークシートなど】
2-③ 説明活動のための「話し合い」の手だて【ディベート・ポスターセッション・ロールプレイなど】
2-④ 学習の振り返りと感想交流 【シェアリングなど】
以下の「3」(評価)に関しては今後の課題であり、実践の中でさらなる検討を加えていきたい。
3 「習得」と「活用」を踏まえた評価 【座席表・ポートフォリオなど】
3-① 習得した知識・技能を確かめる
3-② 授業場面で資料が活用できるか確かめる
3-③ 関心をもち意欲的に探究できるか

以下の実践例については、資料2 (P.26～) の「活用」を意識した実践例を参考にされたい。

ア 「活用」を意識した実践例1 『授業改善のための指針(1-①) 説明文の構成を理解し、自ら説明文を書く小学校国語の実践』

小学校4年・国語科「ヤドカリとイソギンチャク」の単元では、説明文の構成について基礎的・基本的な知識を習得し、その後で自分の説明文を書く学習展開となっている。国語科の特性を生かし、前時までに習得した事項を活用しつつ、新たな基礎・基本を習得していく。

本授業例では、まず「問い」(序論)と「答え」(結論)を書く。その上で「問い」と「答え」を結ぶ「説明」(本論)部分を分かりやすい言葉で、書き進める。根拠をはっきりさせ、実験や観察をする中で、結果がよく分かるように、適切な資料を選んで、読み手を説得する文章を作り上げる。書いた文章

を推敲して、直すとよい記述に気付く。学習した説明文の構成や集めた資料を基にして、課題に応じた説明文を書くことができる力を身に付けさせる展開となっている。

イ 「活用」を意識した実践例2 『授業改善のための指針（1-① 2-② 2-③）資料の読み取りと意見交流の場を重視した小学校社会科の実践』

小学校5年・社会科「わたしたちの生活と工業生産」の単元では、効率的に生産する工夫・消費者に届けられる努力・世界とのつながりの中での発展について理解した上で、自動車工業の今後の在り方について話し合う学習活動を考えた。社会科の場合、「習得」「活用」がスパイラルに展開している。

本授業例では、自動車を生産する海外工場のある国名を地図帳で確かめ、「アメリカに輸出された自動車の台数とアメリカで生産された自動車の台数」のグラフを読み取る。その上で、「工場について海外進出か国内の充実かどちらに重点を置くべきか」について、自分の意見をワークシートに書き、ディベートを行う。ゲスト・ティーチャーから現地生産の必要性と国内産業の振興の話聞き、まとめを行う。社会科では「資料を活用する力」「資料を読み取る力」を基に、ワークシートへの記入やディベートなりシナリオ・ディベートなりの発表活動を行うことで、思考力・判断力を高めることを目指している。資料を読み取り、解釈し、自分の考えをもち、意見を交流して深める場を設定することが大切な学習活動となっている。

ウ 「活用」を意識した実践例3 『授業改善のための指針（1-② 2-①）おもちゃづくりで、創造的な技能の習得を図る小学校図画工作科の実践』

小学校2年・図画工作科「ぱたぱた・びこびこ～動くおもちゃをつくろう～」の単元では、「習得」「活用」「探究」という学習類型を一体的なものとしてとらえる。「見る」（感性をはたらかせる）「考える」（発想・構想力・思考判断）「つくる」（形や色、材料、イメージを大切にすること）が一つの学習プロセスとして意識されており、「活用」の中で基礎的・基本的な知識・技能の習得が図られる。

本授業例では、動くおもちゃをつくることを通して、動く仕組みを理解したり、様々な表現方法を身に付けたりする。ストローと紙コップを使い、動く仕組みを理解し、仕組みの動きや形からつくりたいもの・楽しくなるものを考える展開となっている。これは「習得」と「活用」が一方向・双方向といったものではなく、「活用」を行う中で「習得」が自然と図られる学習活動の展開となっている。これらの展開は図工だけでなく、生活科・音楽科・体育科・家庭科などでより多く考えられる。

エ 「活用」を意識した実践例4 『授業改善のための指針（1-① 2-③）科学的な知識・技能の習得と説明活動を充実させた中学校理科の実践』

中学校2年・理科「気象とその変化」の単元で、各季節の天気の特徴を知った後、新たに提示された天気図の季節を推定する授業を考えた。これは、天気記号・等圧線・風向・前線などの科学的な知識を身に付け、それを活用し、提示された天気図について季節を予想する展開である。根拠となる特徴を挙げ、季節を推定した。これは資料を読み取り、分析・解釈する力を目指したものと言える。

本授業例では、天気図や気象衛星画像などのデータを総合的に分析・解釈し、ワークシートにまとめ、それを発表する展開を考えた。グループごとに分かりやすく説明するため、観察・実験の結果などを示したり展示したりするMD（マーケティング・ディスカッション：注2）法を取り入れ、発表の場を設け、意見を述べ合い交流することで、説明活動を行った。科学的な概念を利用して、考えたり説明したりする力の育成を目指したものと言える。

オ 「活用」を意識した実践例5 『授業改善のための指針（1-① 2-① 2-②）資料の読み取りと説明活動を重視した中学校数学科の実践』

中学校3年・数学科「標本調査」の単元では、総合的な学習の時間と数学による教科・領域に横断的となる構成とした。総合的な学習の時間で自分の問題意識を基にアンケートを作り、数学の時間でアンケートの集計・整理・分析を行い、再び総合的な学習の時間で発表会のためのポスターを作成し、発表する展開となっている。数学科では、身近な事象について標本調査を行い、問題を解決していく。

本授業例では、環境問題を取り上げ、ゴミの分別やキャップ集めの状況についてアンケートを実施する。コンピュータを使用し、グラフを作成する。作成した資料の読み取りを行い、発表し、発表内容について話し合う。言葉・図・式・表を使って説明する力を身に付けさせることをねらっている。自分の課題について、分かりやすい資料を用い、根拠を明確にして説明する活動を重視した展開と言える。

(10) 高等学校における新学習指導要領の告示

文部科学省は、小・中学校の改訂に引き続いて、平成21年3月に高等学校の新しい学習指導要領を告示した。今回の改訂では、小・中学校の学習指導要領と同じく、確かな学力に基づく「生きる力」を目指し、「言語活動の充実」が図られ、「習得」「活用」「探究」といった学習活動を重視することとなった。「理数教育」「食育と安全教育」「伝統文化の理解」「愛国心の涵養」なども重視され、小中高校12年間を視野に入れたカリキュラムの編成が目指されることとなった。

また、指導に当たって配慮すべき事項として、実態に応じ、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るために学習機会を設定することや、道徳の全体計画を作成することが掲げられている。

国語と数学に関する主な内容の改善については、**資料3-1, 3-2** (P34～)を参照されたい。

5 研究の成果と今後の課題

研究の成果としては、

- (1) 県内公立小中学校（名古屋市を除く）で新学習指導要領に関するアンケートを悉皆調査として実施した。活用を意識した授業づくりを通して、現状の問題点や課題について把握した。
- (2) 「活用」を意識した授業づくりを進めるために学習指導案を作成し、具体的な学力や指導方法の在り方について研究し、授業改善の指針について検討することができた。
- (3) 高等学校の新学習指導要領の国語と数学の主な改善点について研究を進めた。

今後の課題としては

- (1) 教科によって「習得」と「活用」のつながりが異なるので、その特徴を踏まえ、活用を意識した授業づくりを進め、学習プロセスを重視した様々な手だてについて検討していく必要がある。
- (2) さらに、「活用」を意識した授業の改善について、所内研究だけでなく学校現場と共同して研究を進めたい。「活用」を意識した授業づくりを進め、その中で小中高校を見通した授業改善の指針についてまとめていきたい。
- (3) あわせて「習得」と「活用」を踏まえた「評価」の在り方についても検討をしていく必要がある。

(注1)「第17回 授業フォーラム」(平成21年度 総合初等教育研究所主催)の神山弘氏による講演『新しい学習指導要領の趣旨の実現に向けて』より引用した内容 中教審答申の中に示された内容

(注2) MD法とは、グループ学習の一つで、子供たちの様子が市場での「売り手」と「買い手」の様子に似ていることから名付けられた。グループでまとめた内容を発表する時に、発表者和其他のグループへ情報収集に出掛ける者に分かれ、後で情報収集者が自分のグループの発表内容を吟味する。ジグソー学習と共に文部科学省が作成した資料集の中で紹介されている。

資料 1

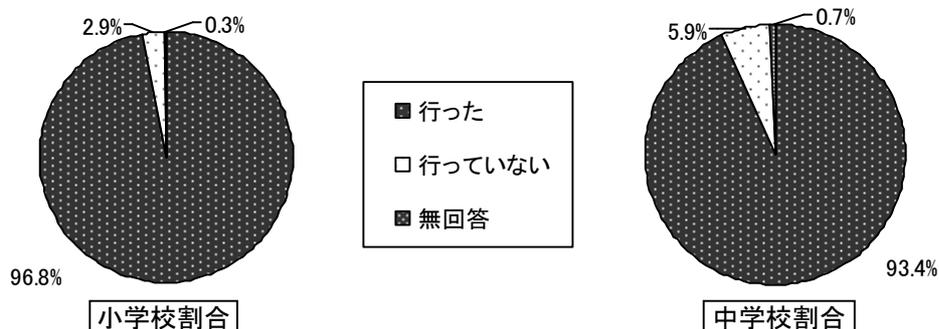
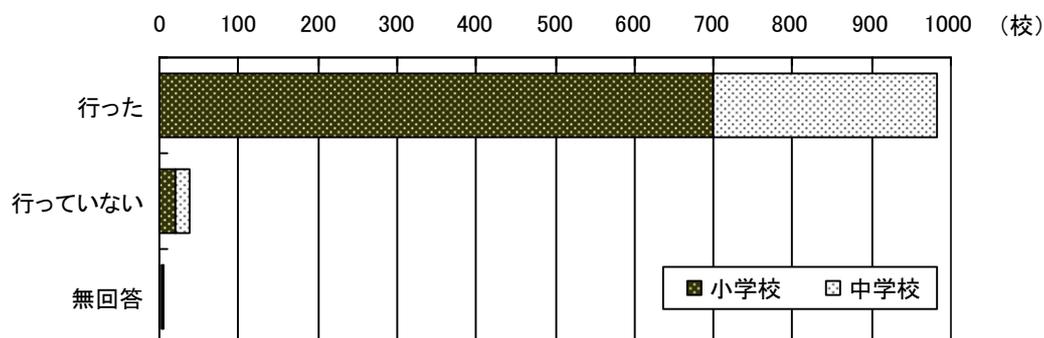
「愛知県内の小中学校における新学習指導要領に関するアンケート」の結果

- ・調査日：平成 21 年 7 月 16 日現在
- ・対 象：県下全小中学校（名古屋市を除く：1,026 校）
- ・回答者：教務主任

(1) 貴校では、昨年度及び本年度の 4 月～7 月（7 月末までの計画も含む）の期間に、「新しい学習指導要領」の理解を図るために、研修若しくは伝達を行いましたか。

- 1 行った 2 行っていない

校種	行った	行っていない	無回答	合計
小学校（校）	700	21	2	723
割合（%）	96.8	2.9	0.3	100.0
中学校（校）	283	18	2	303
割合（%）	93.4	5.9	0.7	100.0
小中計（校）	983	39	4	1026
割合（%）	95.8	3.8	0.4	100.0

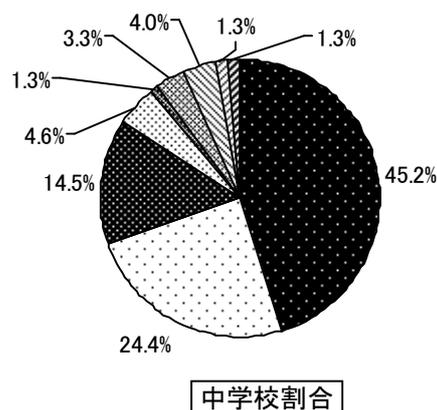
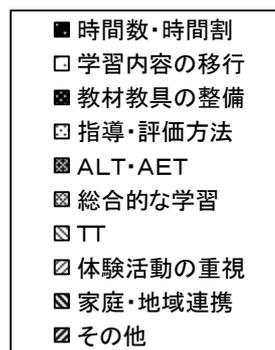
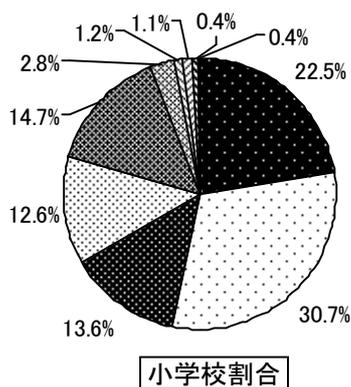
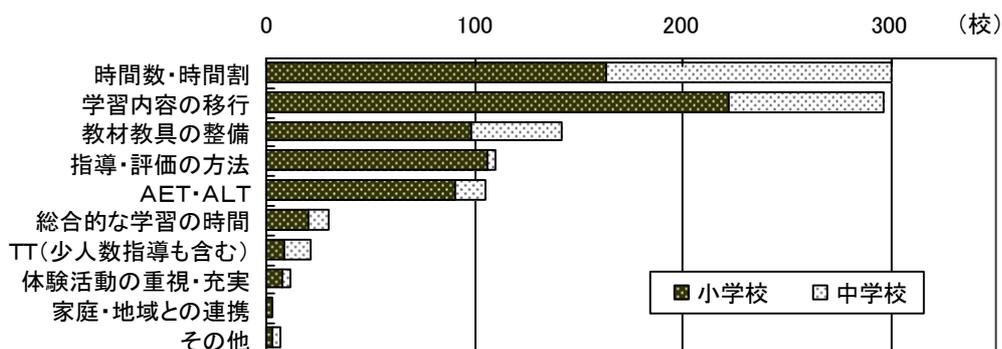


小中学校共に、新学習指導要領の理解を図るための研修会が 90%を超えて実施されている。小学校の方が実施状況の割合が若干高い。

(2) 新しい学習指導要領が本格実施となるまでに、**学校の条件整備**の面で、あなたが特に不安を感じる項目を、次の中から1つ選んでください。

- 1 時間数・時間割 2 学習内容の移行 3 教材・教具の整備
- 4 指導・評価の方法 5 AET, ALT (英語・外国語活動)
- 6 TT (少人数指導も含む) 7 総合的な学習の時間
- 8 体験活動の重視・充実 9 家庭・地域との連携 (ボランティアなど)
- 10 その他 (アンケート回答別紙に御記入ください)

校種	時間数・時間割	学習内容の移行	教材・教具の整備	AET ALT	指導・評価の方法	総合的な学習の時間	TT [小人数も含む]	体験活動の重視・充実	家庭・地域との連携	その他	合計
小学校(校)	163	222	98	106	91	20	9	8	3	3	723
割合(%)	22.5	30.7	13.6	14.7	12.6	2.8	1.2	1.1	0.4	0.4	100.0
中学校(校)	137	74	44	4	14	10	12	4	0	4	303
割合(%)	45.2	24.4	14.5	1.3	4.6	3.3	4.0	1.3	0.0	1.3	100.0
小中計(校)	300	296	142	110	105	30	21	12	3	7	1026
割合(%)	29.2	28.8	13.8	10.7	10.2	2.9	2.0	1.2	0.3	0.7	100.0

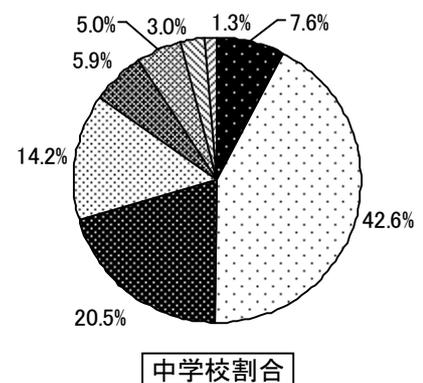
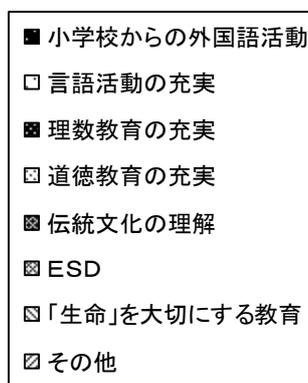
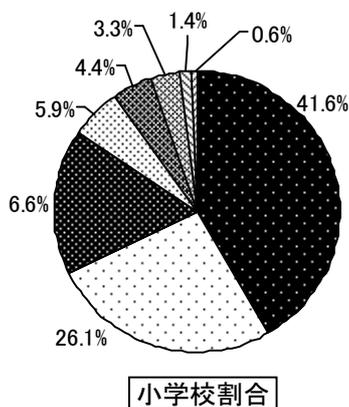
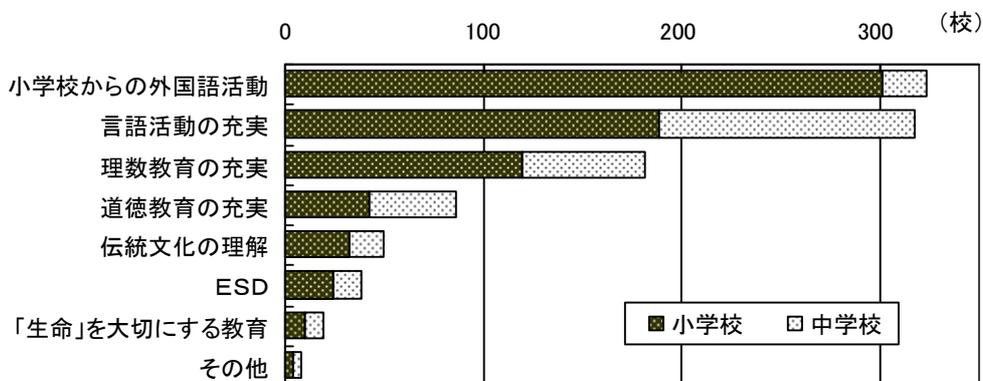


学校の条件面の整備で、小学校では多い方から「学習内容の移行」「時間数・時間割」「AET・ALT」と続く。中学校では「時間数・時間割」「学習内容の移行」「教材教具の整備」となっている。小中共に「学習内容の移行」に伴い、教材教具の整備が迫られている。小学校では中学校と異なり、「AET・ALT」に関する不安が高い。外国語活動が始まるためと考えられる。

(3) 新しい学習指導要領が本格実施となるまでに、**学習内容**の面で、あなたが特に不安に感じる項目を、次の中から1つ選んでください。

- 1 言語活動の充実 2 理数教育の充実 3 道徳教育の充実
 4 伝統文化の理解 5 「生命」を大切にす教育（保健・食・防災・防犯）
 6 小学校からの外国語活動 7 ESD（持続可能な開発のための教育）

校種	小学校からの外国語活動	言語活動の充実	理数教育の充実	道徳教育の充実	伝統文化の理解	ESD	「生命」を大切にす教育	無回答	合計
小学校(校)	301	189	120	43	32	24	10	4	723
割合(%)	41.9	26.3	16.7	6.0	4.5	3.3	1.4	0.6	100.0
中学校(校)	23	129	62	43	18	15	9	4	303
割合(%)	7.7	43.1	20.7	14.4	6.0	5.0	3.0	1.3	100.0
小中計(校)	324	318	182	86	50	39	19	8	1026
割合(%)	31.8	31.2	17.9	8.4	4.9	3.8	1.9	0.8	100.0



学習内容面で、小学校では多い方から「外国語活動」「言語活動の充実」「理数教育の充実」と続く。新たな外国語活動を重視するとともに、「言語活動の充実」を不安視する学校が多い。

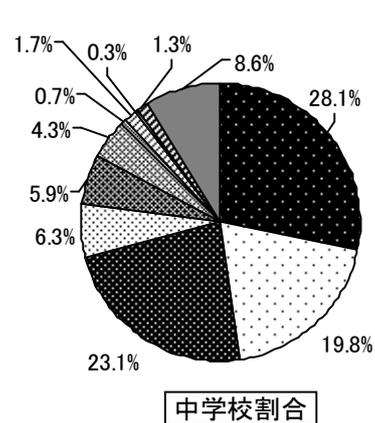
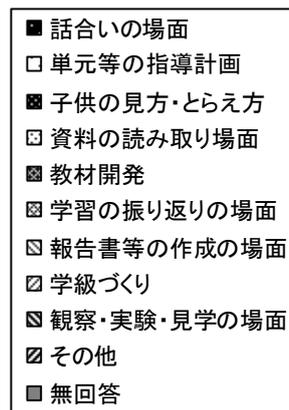
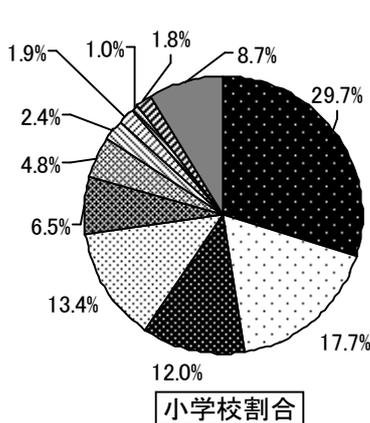
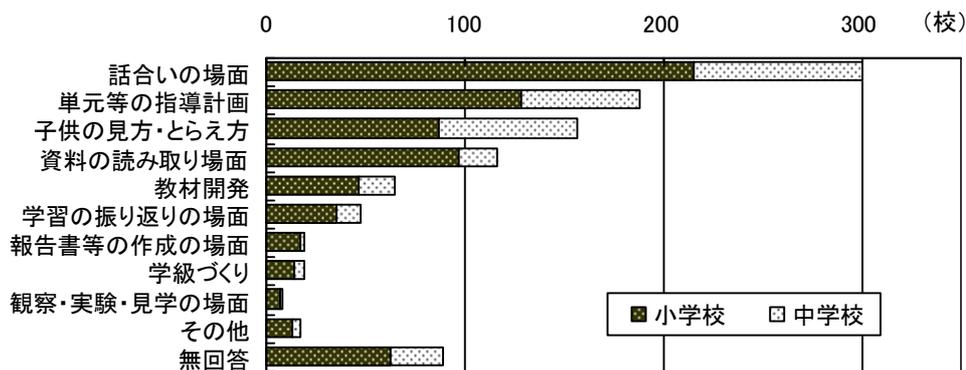
中学校では多い方から「言語活動の充実」「理数教育の充実」「道徳教育の充実」と続く。「言語活動の充実」が40%を超えている。

小中学校共に時間数が増加し、学習内容も増える理数教育をどのように進めていくかが、これからの課題となってくる。

(4) あなたの学校では、本年度、全国学力学習状況調査の結果を基に、どのような授業や指導方法の改善に取り組みたいと考えていますか。次の中から、1つ選んでください。

- 1 子供の見方・とらえ方 2 教材開発 3 単元等の指導計画
- 4 話合いの場面 5 観察・実験・見学の場面
- 6 資料（図・表・グラフ・文章）の読み取り場面 7 報告書等の作成の場面
- 8 学習の振り返り（シェアリング）の場面 9 学級づくり

校種	話合いの場面	単元等の指導計画	子供の見方・とらえ方	資料の読み取り場面	教材開発	学習の振り返りの場面	報告書等の作成の場面	学級づくり	観察・実験・見学の場面	その他	無回答	合計
小学校（校）	215	128	87	97	47	35	17	14	7	13	63	723
割合（％）	29.7	17.7	12.0	13.4	6.5	4.8	2.4	1.9	1.0	1.8	8.7	100.0
中学校（校）	85	60	70	19	18	13	2	5	1	4	26	303
割合（％）	28.1	19.8	23.1	6.3	5.9	4.3	0.7	1.7	0.3	1.3	8.6	100.0
小中計（校）	300	188	157	116	65	48	19	19	8	17	89	1026
割合（％）	29.2	18.3	15.3	11.3	6.3	4.7	1.9	1.9	0.8	1.7	8.7	100.0

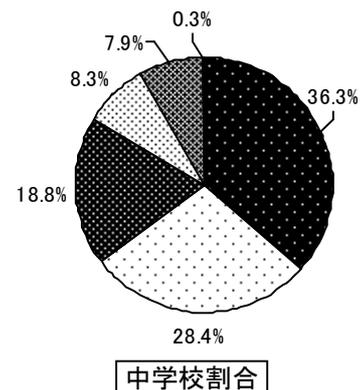
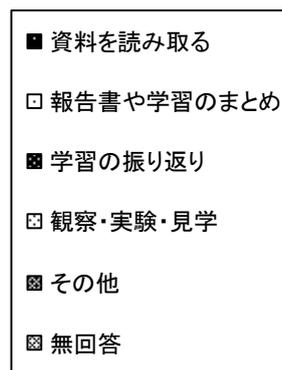
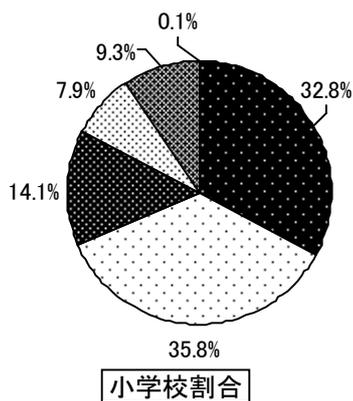
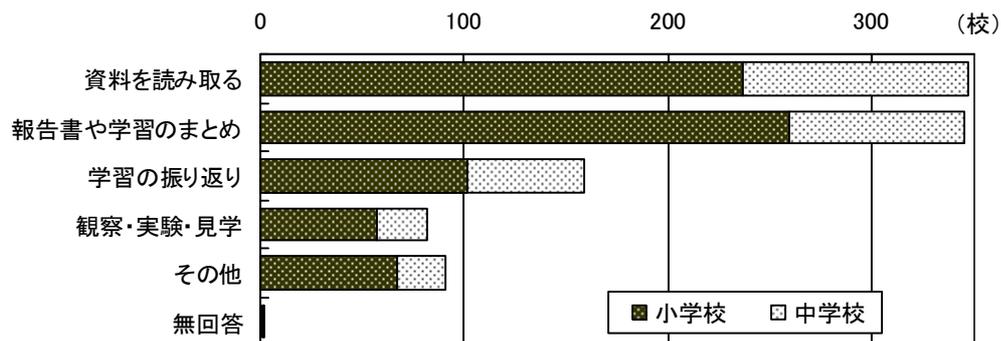


全国学力学習状況調査を基にどのような授業や指導方法の改善に取り組むかで、小学校では「話合い」「単元の指導計画」「資料の読み取り」、中学校では「話合い」「単元の指導計画」「子供の見方」が挙げられる。話合い場面を大切にした指導計画を作成するとともに、小学校では資料の読み取り場面を設定することが、中学校では「子供の見方」を改善していくことが大切と回答している。

(5) あなたは新しい学習指導要領が重視している「活用」をどのような学習活動とお考えですか。次の中から、1つ選んでください。

- 1 資料（図・表・グラフ・文章）を読み取る
- 2 観察・実験・見学
- 3 報告書や学習のまとめを作成する
- 4 学習の振り返り（シェアリング）を行う
- 5 その他（アンケート回答別紙に御記入ください）

校種	資料を読み取る	報告書や学習のまとめ	学習の振り返り	観察・実験・見学	その他	無回答	合計
小学校（校）	237	259	102	57	67	1	723
割合（％）	32.8	35.8	14.1	7.9	9.3	0.1	100.0
中学校（校）	110	86	57	25	24	1	303
割合（％）	36.3	28.4	18.8	8.3	7.9	0.3	100.0
小中計（校）	347	345	159	82	91	2	1026
割合（％）	33.8	33.6	15.5	8.0	8.9	0.2	100.0

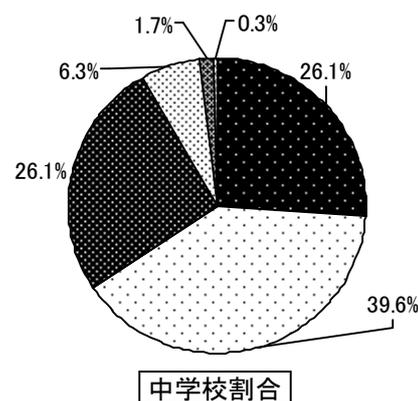
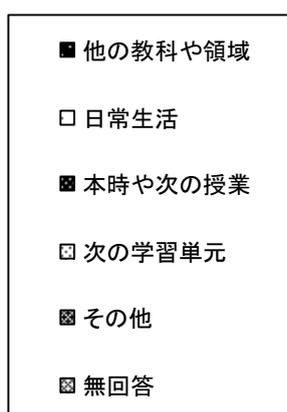
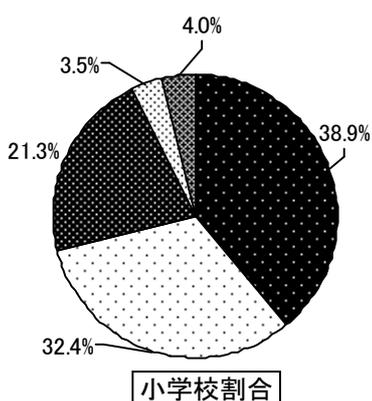
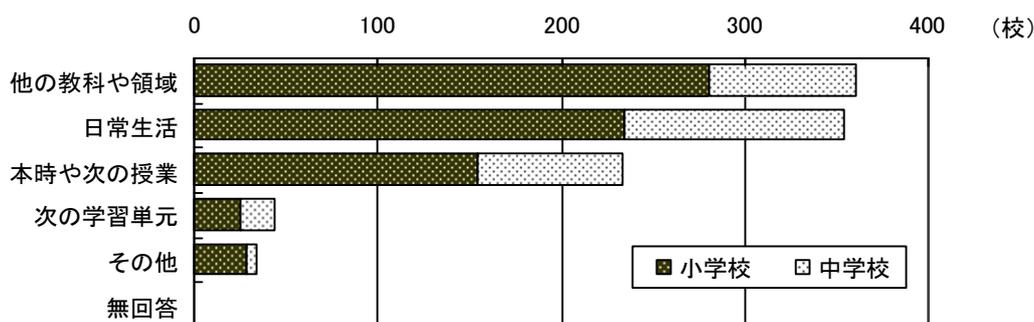


小中学校共に「活用」の学習活動として、「報告書の作成」や「資料を読み取る」が多い。これは文科省の例示があるためと考えられる。資料を読み取り、それを基にして自分なりの意見を書いたり、発表したりすることが活用と考えられている。また学習内容を「振り返る」場面でも活用が行われるという意見が多い。

(6) あなたは、「活用」という学習活動において、「習得」した知識・技能をどのような場面で役立てることとお考えですか。次の中から、1つ選んでください。

- 1 学んだことを本時や次の授業場面で役立てる
- 2 学んだことを次の学習単元に役立てる
- 3 学んだことを他の教科や領域に役立てる
- 4 日常生活に役立てる
- 5 その他（アンケート回答別紙に御記入ください）

校種	他の教科や領域	日常生活	本時や次の授業	次の学習単元	その他	無回答	合計
小学校（校）	281	234	154	25	29	0	723
割合（％）	38.9%	32.4%	21.3%	3.5%	4.0%	0.0%	100.0%
中学校（校）	79	120	79	19	5	1	303
割合（％）	26.1%	39.6%	26.1%	6.3%	1.7%	0.3%	100.0%
小中計（校）	360	354	233	44	34	1	1026
割合（％）	35.1%	34.5%	22.7%	4.3%	3.3%	0.1%	100.0%

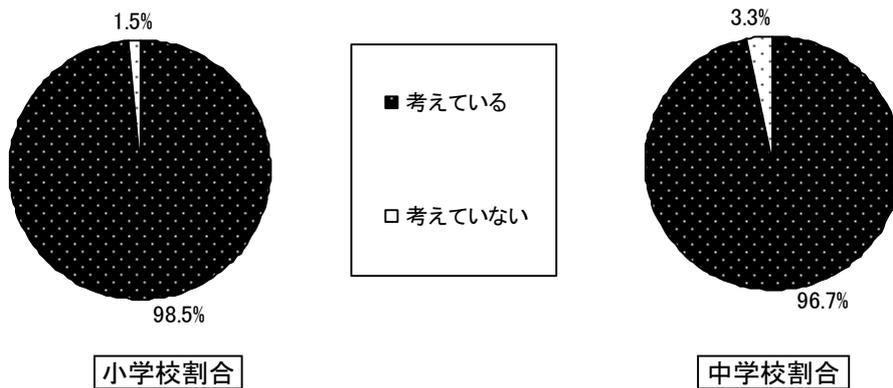
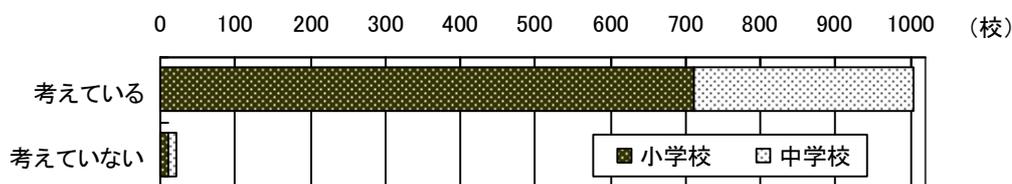


「活用という学習活動において、どのような場面で役立てることか」については、小学校では「他の教科・領域」「日常生活」で、中学校では「日常生活」で役立てるとした回答が多かった。「活用」ということを、次の学習単元や次の授業で役立てる以上にもう少し応用範囲の広い内容と考えられている。

(7) あなたは、確かな学力を育てるために「活用」の学習活動は大切と考えていますか。

1 考えている 2 考えていない

校 種	考えている	考えていない	合計
小学校 (校)	712	11	723
割 合 (%)	98.5%	1.5%	100.0%
中学校 (校)	293	10	303
割 合 (%)	96.7%	3.3%	100.0%
小中計 (校)	1005	21	1026
割 合 (%)	98.0%	2.0%	100.0%

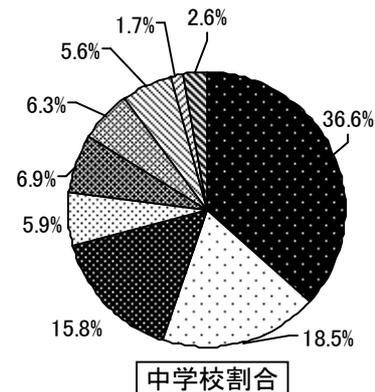
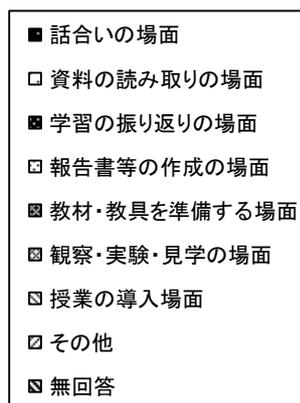
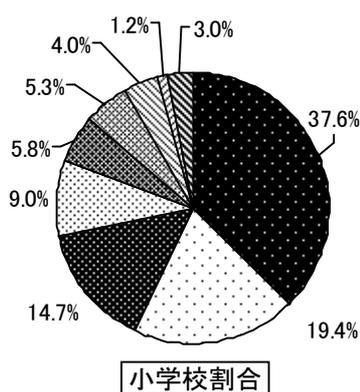
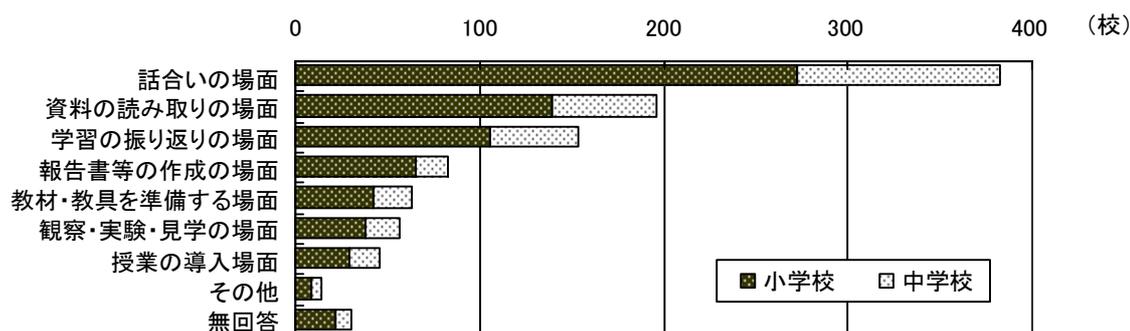


小学校で712校(723校中)、中学校で293校(303校中)、小中全体の95%以上が活用は大切な学習活動と回答した。「活用」が確かな学力を身に付けるために必要な学習類型であると考えていることがよく理解できる。しかし、指導時間数にある程度のゆとりが見出せないと「活用」としての学習活動を位置付けることは難しいのではないかと不安視する意見が多い。学習を単なる知識の習得に終わらせず、「生きる力」へとつなげるためにも、日々の指導の中で活用の場面を大切にすることが重要と考えられる。「活用」というと何か新しい学習活動のように感じられるが、学んだことを生かして、活動することと考えれば、「話し合い活動」「学習のまとめとする活動」などを充実すれば良いのではないかという意見もあった。

(9) あなたは、新学習指導要領に示された「活用」を取り入れた授業改善を進めるにあたって、**1時間の授業**で、どのような場面で工夫が大切とお考えですか。次の中から、特に大切なものを1つ選んでください。

- 1 教材・教具を準備する場面
- 2 授業の導入場面
- 3 話合いの場面
- 4 観察・実験・見学の場面
- 5 資料(図・表・グラフ・文章)の読み取りの場面
- 6 報告書等の作成の場面
- 7 学習の振り返り(シェアリング)の場面
- 8 その他(アンケート回答別紙に御記入ください)

校種	話合いの場面	資料の読み取りの場面	学習の振り返りの場面	報告書等の作成の場面	教材・教具を準備する場面	観察・実験・見学の場面	授業の導入場面	その他	無回答	合計
小学校(校)	272	140	106	65	42	38	29	9	22	723
割合(%)	37.6	19.4	14.7	9.0	5.8	5.3	4.0	1.2	3.0	100.0
中学校(校)	111	56	48	18	21	19	17	5	8	303
割合(%)	36.6	18.5	15.8	5.9	6.9	6.3	5.6	1.7	2.6	100.0
小中計(校)	383	196	154	83	63	57	46	14	30	1026
割合(%)	37.3	19.1	15.0	8.1	6.1	5.6	4.5	1.4	2.9	100.0



1時間の授業で大切なことは、小中学校共に「話合いの場面」「資料(図・表・グラフ・文章)の読み取り場面」「学習の振り返り(シェアリング)場面」の順番で、この三つで小中全体の7割を超えている。活用を意識した1時間の授業とは、「資料等の読み取り」で得た知識や考えを基に「話合い」を行う。教師は話合いや学習活動の振り返りの手だてを考えていかなければならない。これら学習活動のプロセスを大切にされた授業改善を進めていくことと考えられる。

(10) 「活用」についての意見

【小学校】

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な力をはぐくむためには、今まで以上に単元の指導計画の中で基礎・基本の定着を図ることが大切だと考える。
- ・ 単元を通して、「習得」「活用」「探究」のプロセスを一連のものと考え、計画する。
- ・ 資料から読み取ったことを基に次の課題解決できる力を育成する研究を進めたい。
- ・ 教科の枠を超えた活用、探究型の授業づくりをするために、体験活動や問題解決場面を取り入れた指導計画を進めていく必要がある。
- ・ 活用力を育てるために、既習の内容を定着させる必要がある。知識や技能が定着してこそ、新しい考え方を生み出す活用力を育てることができる。
- ・ 活用する力を高めるために①情報を整理し、図表やグラフを整理し、自分の考えを書く学習 ②子供たちの話し合い活動を活発にするために、発問を工夫したり、資料の精選化をしたりする学習を行う。
- ・ 各教科で獲得した知識をどのような方法で、他の教科や領域で活用していくのか。
- ・ どのような場面で活用を役立てるかで、次授業から次単元へ、そして他の教科・領域へ、更に日常生活へ役立てることを目指すべきである。
- ・ 授業の工夫、構想力など教師の授業力が求められている。
- ・ 既習の知識技能を基に本時の課題を解決しようとする活動と教室での学びを生活で生きて働く活動との2つを活用と考えるが、深化・探究とのとらえ方との重なりを大切にしたいと思う。
- ・ 「活用」というと何か新しい学習活動のように感じられるが、学んだことを生かして、活動することと考えると「話し合い活動」「学習のまとめとする活動」などを充実すれば良いのではないかと考えている。
- ・ 「活用」に含まれる活動の範疇、習得とのスパイラル、探究型授業とのかかわり方について職員間で共通理解を図って、取り組んでいかなければいけないと思う。
- ・ 「活用」については、教科・領域また単元内容等によって、とらえ方がいろいろあるので、一概にこれとは決めにくい。アンケート内容のすべての項目が大切である。
- ・ 「活用」とは1つだけの力でなくて、「深める・広げる・使う・つなぐ・創る・読む」など広範囲で発揮できるものだ考える。「活用」だけを取り出して学ばせるものではないと思っている。
- ・ 新たに「活用」という学習活動が加えられたのではなく、今まで行われている活動で基礎・基本となる知識・技能が「習得」であり、話し合い、実験、まとめの作成、関連単元、他教科に役立っていくのが「活用」だと思う。
- ・ 「活用」の中の表現力の中核が言語活動と言われている。各教科で言語活動の充実をしていきたい。
- ・ 指導時間数にある程度のゆとりが見出せないと「活用」としての学習活動を位置付けることは難しいのではないかと不安である。
- ・ 本校では「習得サイクル」「探究サイクル」そして活用と関わりを図式化して、研究実

践に取り組んでいる。

- ・ 本校の研究テーマとしている「わかる」から「できる」段階へのステップが必要であるし、日常生活や将来に「活用」できるための地域素材の開発や人的交流の充実が必要になると思う。
- ・ 今までも「活用」の学習活動は取り入れられていたと思う。今回活用型学習が位置付けられたことで、活用すべきものが何か明確となった。
- ・ 「習得」「活用」「探究」という新しい授業形態のように思われるが、必ずしもそうではないと思っている。「活用」については授業のイメージをつかむためにも、実際のモデル指導案を作成していくことが効果的と思われる。
- ・ 「活用」を意識する意図はよく理解できる。学習を覚える（入力）ことではなくて、使う（出力）ことをもっと教師が意識していくべきだと思う。

【中学校】

- ・ 活用力を高める授業の在り方とよりよい学習評価の方法を見出していきたい。
- ・ 習得した知識を活用していくため、授業の中で、話し合い活動を取り入れ、自分の言葉で他者に説明する場面を設けていきたい。
- ・ 「習得」「活用」「探究」の考え方が職員に意識化されているとはいえないのが現状である。授業の実態は、「習得」に重点を置いた指導が中心である。入試への対応を考えると、これまでの指導スタイルを替えるのは難しい面もあるが、「活用」を意識した授業スタイルに取り組んでいきたい。
- ・ 「習得」→「活用」→「探究」という流れだけでなく、活用的な授業展開を進める中で、基礎・基本の習得を図ることも試みたい。
- ・ 学んだ学習内容を活用し、日々の生活はじめ学習場面で生きた知識となるように、日々の授業を充実させたい。
- ・ 活用については今後の研究課題であり、「発信」「発表」することも大切と考える。
- ・ 「探究」につながる「活用」する力を育成することは大切であり、現職教育のテーマとしていきたい。
- ・ 習得した知識技能を活用する場面においても「言語活動の充実」はきわめて大切だと思う。指導要領の柱の1つであるこの点を重視して、教育活動に取り組みたい。
- ・ 本校では、各教科の教育課程を「習得」「活用」「探究」に分類し、意識して授業と取り組んでいる。特に活用の部分を重視している。
- ・ 「活用」を取り入れるためには、時間的なゆとりと習熟度別に分けた少人数指導の体制が必要であると考えます。
- ・ 時間数が増え、「活用」「探究」の時間的にゆとりがないことが心配である。
- ・ 教科の内だけでなく、日常生活で活用できる学力が求められている。実生活・日常生活から生まれ出る課題や教材を開発していかなければならない。
- ・ 学習を単なる知識の習得に終わらせず、「生きる力」へとつなげるためにも、日々の指導の中で活用の場面を大切にすることが重要と考える。
- ・ 「活用」の意義がわかっておらず、個々の職員のとらえ方がまちまちなので、どのよ

うに授業に生かすかよくわかっていないことが多い。

- 「活用」の学習活動については、生徒の実態・学校や地域の特色を考えて、計画すべき。
- 「活用」については次時へつながるもの、または発表する機会などの設定が必要。
- 1つの教科や単元で学習したことが、同じ教科の次の単元に波及するだけでなく、他の教科へとつながることが大切である。
- 「活用」は身に付けたことを用いて考える力のことと言われる。思考の焦点化のためには、ポイントや考える方向性を的確に示す技量を研修していく必要性を感じる。
- 「人・もの・こと」を授業に取り入れて、活用に値する知識や技能を確実に習得させる授業を目指す。
- 教科によって身に付ける知識技能が異なるように、「活用」の在り方も異なってくる。それぞれの学校で環境教育（E S D）・キャリア教育・人権教育など方向性をもった指導が必要となっている。
- 本校ではコミュニケーションを通して、子供同士が高め合う授業を研究している。単元の構成は「興味をもつ階層」→「追究する階層」→「まとめ・発表する階層」としている。1時間の授業では「問題をとらえる」→「追究する」→「まとめる」という段階を考えている。各段階で子供たちはコミュニケーションをして、気づきや疑問、考えなどを共有し、高め合う。このような学習の過程で得た知識をきちんと整理し、書き残してこそ、活用する力が身に付くと考えられる。

1 学校種名・学年・教科・単元名

小学校4年・国語科

「だん落とだん落の関係を考えて読もう『ヤドカリとイソギンチャク』」（10時間完了）

2 単元の目標

- ・段落相互の関係や文章の構成をを考えて内容を読み取ることができる。【読む】
- ・筆者の論法を参考にして、課題に応じた説明文を書くことができる。【書く】

3 授業改善の指針

第一次で説明文の読み方について基礎的・基本的な知識及び技能を『習得』させ、第二次でこれらを『活用』して説明文を書かせることで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

ただし、国語科の特性において、前時までに『習得』した事柄を『活用』しつつ新たに基礎的・基本的な事項を『習得』していく活動も多く、明確にこれらを区別することは難しい。一つの単元の中に『習得』と『活用』を意識した学習過程を位置付けることで、『活用を意識した』授業を展開する。

4 単元の指導計画

次時	学習内容	指導上の留意事項	・習得させる基礎・基本事項 (活用させる習得事項)	
第一次 【習得】	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・全文を通読し、大まかな内容をとらえる。 ・新出漢字、語句の学習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読と一人読みで内容を確認させる。 ・ウェブサイト、学習ソフト、漢字辞典・国語辞典等を利用し、漢字調べ、語句の意味調べを行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字・読み替え漢字の理解(パソコンでの意味調べの仕方) ・語句の意味の理解(漢字辞典・国語辞典の使い方)
	第2・3時	<ul style="list-style-type: none"> ・形式段落ごとの要点をつかむ。 ・要旨をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「中心文」や「キーワード」または「主語・述語」に着目させ、段落ごとに要点をまとめさせる。 ・文末表現から、事実と考えの書かれた文を見分けさせる。 ・筆者の言いたいことは何か考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要点をまとめる理由とまとめ方 ・中心文の見つけ方 ・キーワードの探し方(形式段落の分け方、主語・述語の見つけ方) ・事実と考えの文の違い(様々な文末表現) ・要旨をまとめる理由とまとめ方
	第4・5時	<ul style="list-style-type: none"> ・段落相互の関係を考える。 ・「問い」「説明」「答え」からなる筆者の論法を知る。 ・文章全体の構成を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1～3年生で学んだ説明文を振り返らせ、「序論」「本論」「結論」で構成される報告書(説明文)が多いことを理解させる。 ・「問い」と「答え」を結ぶ「説明」の方法について理解させる。 ・資料の効果について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文と物語文の違い ・筆者の文章構成とまとめ方(「はじめ・なか・おわり」「まず・つぎに」「一つめは・二つめは…」) ・「問い」と「答え」の照応 ・「実験」「観察」の方法と結果 ・写真や図の意図と解釈
第二次 【活用】	第6時	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の論法を真似て、説明文を書くことを知る。 ・説明文の題材を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「問い」「説明」「答え」の順で説明文を書くことを知らせる。 ・身近な動植物や自然現象について「なぜだろう」「不思議だな」と思うことから題材を選ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> (説明文の文章構成とまとめ方) ・思いついたことのメモの仕方(箇条書き、要点のまとめ方) ・調べる題材の選び方
	第7時	<ul style="list-style-type: none"> ・書こうとした題材に必要な資料や情報を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書、インターネット等で「問い」に対する「答え」を見付けさせる。 ・「説明」されていることを自分の言葉で解釈させる。 	<ul style="list-style-type: none"> (図書室の利用法、インターネット検索の仕方) (取材メモの取り方) ・ペアでの対話による説明と質問(語句の意味調べ)

第8・9時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 「問い」と「答え」を結ぶ「説明」の仕方を工夫して説明文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 「説明」の順序、具体例や資料が適切かどうか考え、表現を工夫させる。 写真や図など、参考にした資料は、出典を明記して利用するようにさせる。 主述の呼応、誤字脱字、段落分けに注意して推敲させる。 	<p>(『ヤドカリとイソギンチャク』で学んだ説明文の構成、「問い」と「答え」の照応、「実験」「観察」の方法と結果、写真や図の意図と解釈)</p> <p>(原稿用紙の使い方)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料の評価の仕方、著作権 <p>(推敲の仕方…主述の呼応、誤字脱字、段落分け、文末表現、説明の順序)</p>
第10時	<ul style="list-style-type: none"> 書いた説明文をグループで発表し、評価し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「問い」と「答え」が照応しているか、「説明」が分かりやすいか、資料が適切か、文章が整っているかの観点に沿って評価させる。 感想や質問を述べ合い、意見を交流させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明文の評価の仕方 <p>(意見交流の仕方)</p>

5 本時の展開 (8・9/10時) ※下線部：活用を意識した展開部分

学習活動・主な発問	指導上の留意点・教師支援・目指す力
<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <p>「問い」と「答え」を結ぶ「説明」の仕方を工夫して説明文を書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 『ヤドカリとイソギンチャク』の読み取りを通して学んだことを自分の説明文で生かすようにさせる。
<p>2 「問い」(序論)の部分を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「なぜ、〇〇は△△△なのでしょう」に当てはめて書く。 前または後ろに、取り上げる事例や事物を紹介する文を追加し、文章を整える。 <p>〈例〉「みなさん、〇〇を見たことがありますか」 「〇〇の形は、いつも同じではありません」</p>	<p>段落相互の関係に注意して文章を書く能力</p> <ul style="list-style-type: none"> コンピュータールームを使用し、文書作成ソフトの原稿用紙テンプレートを利用させる。 読み手の興味・関心を引くような文を書き加えるようにさせる。 前学年までに習得してきた文字入力に加え、挿入・削除・文字変換などの操作に慣れさせる。
<p>3 「答え」(結論)の部分を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「このように〇〇は△△△なのです」など答え方の文例を発表させ、「問い」に合う答え方を選んで書く。 <p>〈例〉「〇〇は□□だから△△しているのです」 「〇〇が△△なのは、□□のためなのです」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「説明」の部分より先に「答え」を書かせることにより、「説明」すべきことを明確に意識させる。 文書作成ソフトの改行操作を通して、段落分けを意識させる。
<p>4 「説明」(本論)の部分を書く。</p> <p>調べたことを分かりやすい言葉に直しながら「説明」の部分を書きましょう。</p> <p>① 具体的な事例を挙げて書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「例えば～」 「事例を挙げると～」 「～などが当たる」などの表現を用いる。 <p>② 根拠をはっきりさせて書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「なぜかという～」 「その理由は～」 「～のためである」などの表現を用いる。 <p>③ 実験や観察の様子がよく分かるように書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「はじめに、次に」など順序を表す言葉に気を付けて書く。 日時・場所・条件などを落とさずに書く。 <p>④ 適切な資料を選んで載せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章とのかかわりに気を付けて資料を選ぶ。 	<p>相手や目的に応じ、調べたことが伝わるように文章を書く能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例の書き表し方を工夫させる。 難しい言葉は意味を調べ、分かりやすい言葉に書き直させる。 調べたことの中から、「答え」の根拠(理由)としてふさわしい部分だけを抜き出すようにさせる。 著作権について説明し、資料の出典を明示させる。 これまでに学んできた言語事項を表現に生かすことができているか確かめ、適切に使えるよう助言する。(助詞、送り仮名、句読点、敬体と常体、指示語、接続語など)
<p>5 書いた文章を推敲する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 推敲の観点に照らし合わせて、書き直す。(主述の呼応、誤字脱字、段落分け、文末表現、説明の順序) 	<ul style="list-style-type: none"> プリントアウトしたものを自分で読んだり、友達に読み上げてもらったりしながら、直すとい記述に気付かせる。

国語における『習得』『活用』とは

(1) 新しい学習指導要領改訂のポイントより

基礎的・基本的な知識・技能の習得
発達の段階に応じた指導を徹底し、例えば小学校低・中学年で、「読み・書き・計算」の繰り返し学習などを重視する。
思考力・判断力・表現力等の育成
知識・技能の確実な定着を土台としながら、それを活用する学習活動を充実する。具体的には、各教科等で、 <u>観察・実験やレポートの作成、論述など知識・技能を活用する学習活動を充実する。</u> それを、総合的な学習の時間を中心とした探究的な学習活動に発展させていく必要がある。 <u>このような習得・活用・探究という学習活動の流れの基盤となる言語に関する能力の育成を重視するのがポイントである。</u>
学習意欲の向上や学習習慣の確立
<u>我が国の子どもたちは記述式問題についての無答率が高く、学習意欲に課題がある。学習習慣や学習意欲に課題を抱える学校に対する支援の充実が必要である。</u>

- ・国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の3領域1事項において、『習得』すべき基礎的・基本的な知識・技能を具体化し、各学年段階での指導事項の系統性を一層明確にして、各単元を構成する必要がある。
- ・国語の学習では、「話し方・聞き方」「書き方」「読み方」「言語の用い方」を『習得』させることと学習習慣や意欲を身に付けさせることが『基礎・基本』となる。
- ・言語に関する能力がすべての学習活動の基盤となることから、最終的には国語で学んだことを他の教科や日常生活で生かすことが、『活用』となると考える。

(2) 新しい学習指導要領Q&Aより

Q (小・中学校) 問1-8
中央教育審議会答申(平成20年1月)において、「習得・活用・探究」という考え方が示されましたが、「活用」とはどのようなものですか。「基礎的・基本的な知識・技能」や「思考力・判断力・表現力等」との関係はどのように考えればよいですか。
A 答1-8
「習得・活用・探究」の学習の流れの考え方について、ポイントは以下の5点になります。
1 「基礎的・基本的な知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」は子どもに身に付けさせるもの、「習得・活用・探究」はそのための学習活動の類型を示したものである。
2 各教科では、基礎的・基本的な知識・技能を「習得」とともに、観察・実験をしてその結果をもとにレポートを作成する、文章や資料を読んだ上で知識や経験に照らして自分の考えをまとめて論述するといったそれぞれの教科の知識・技能を「活用」する学習活動を行う。それを総合的な学習の時間等における教科等を横断した問題解決的な学習や「探究」活動へと発展させる。
3 これらの学習活動は相互に関連し合っており、分類されるものではない。
4 各教科での「習得」や「活用」、総合的な学習の時間を中心とした「探究」は決して一つの方向に進むだけではない(「習得→活用→探究」の一方通行ではない)。
5 これらの学習の基盤となるのは言語に関する能力であり、そのために各教科等で言語活動を充実。

- ・小学1年生で平仮名を『習得』した後に文を書くという学習活動を行った場合、『習得』した文字を『活用』する場面でありながら、文の書き方を『習得』する場面でもあるととらえると、国語においては、『習得』『活用』といった学習類型には截然と分類できないことが多い。
- ・各種調査の結果から「記述式問題についての無答率が高い」「文章を深く読んで分析的に理解してその上で論理的に記述する設問で正答率が低下している」という課題があると報告された。これを受け「日常生活に必要とされる対話、記録、要約、説明、感想などの言語活動を行う能力を確実に身に付ける」ことが改善の具体的事項として挙げられている。
- ・この国語科の課題を解決する上で、その学習活動が子供たちの(将来の)生活の中のどの場面で『活用』できるか教師が意識するとともに、子供たちにも理解させることが重要である。
- ・したがって、「読むこと」で『習得』した能力を「書くこと」に『活用』する、「書くこと」で『習得』した能力を「話すこと」に『活用』するなど、各領域相互の関連付けを考慮した授業展開を設定することで『活用』を意識した「活用型」の授業を効果的に行えるのではないかと考える。

「活用」を意識した実践例（社会科）

1 学校種名・学年・教科・単元名

小学校・5年・社会科・わたしたちの生活と工業生産（14時間完了）

2 単元の目標

自動車工業に従事している人々の工夫や努力、生産を支える貿易や運輸について調べ、工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解し、これからの工業の在り方について考える。

3 授業改善の視点

資料を読み取り、解釈して自分の考えをもち、意見を交流して深める場を設定する。

4 単元の指導計画

第一次 自動車づくりを調べよう。…… 10時間

- ・自動車工場の製造工程や部品工場の仕事を調べ、効率的に生産する工夫や努力をまとめる。
6時間（習得）
- ・部品の自動車工場への搬送や、完成した自動車が消費者に届けられる方法や努力を理解する。
2時間（習得）
- ・自動車工業が世界とのつながりの中で発展してきたことを理解し、課題と今後の工業の在り方
をを考える。
2時間（本時）（活用）

第二次 人と共存する自動車の開発を考えよう。…… 4時間（活用）

5 本時の展開 ※下線部：活用を意識した展開部分

学習活動・主な発問	指導上の留意点・教師支援・目指す力
<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <p>世界に広がる自動車工場の様子を知り、これからの工業の在り方を考えよう。</p> <p>2 海外工場のある国名を調べる。</p> <p>・資料「世界に広がる工場」を見て工場の多い北アメリカとアジアの国名を地図帳を使って調べ、白地図に記入する。</p> <p>3 自動車の海外生産の様子を調べる。</p> <p>(1) 資料「アメリカに輸出された台数とアメリカで生産された台数の変化」を読み取る。</p> <p>・輸出した台数は減少しているが、海外で生産される台数が増えてきた。</p> <p>(2) <u>海外生産する意義(○)や問題(●)を考える。</u></p> <p>なぜ、わざわざ外国で自動車を作るのだろうか。また、何か問題はないのだろうか。</p> <p>○現地の人々の要望にそった車作りができる。 ○現地の人々の職を確保できる。 ○安い給料で雇うことができる。 ●指導する日本人の職工が不足する。 ●日本の国内産業が衰える。</p> <p>4 工場について海外進出か国内の充実かどちらに重点を置くべきか話し合う。</p> <p>・それぞれの立場に分かれて、ディベートを行う。</p> <p>・話し合いの最後に、自動車販売会社からのゲスト・ティーチャーのまとめを聞く。</p> <p>5 学習の振り返りをする。</p> <p>・学習の感想をまとめ、発表する。</p>	<p>・国内自動車メーカーの海外工場の写真を示し、外国にも工場があることをとらえさせる。</p> <p>・多くの人種が働く工場の写真から、本時の学習への関心を高めさせる。</p> <p>資料を活用する力</p> <p>・地図帳の調べた国名には○を付けさせる。</p> <p>・グループで協力して調べさせる。</p> <p>・教室に常掲してある世界地図にも国名を記入させる。</p> <p>資料を読み取る力</p> <p>・二つのグラフが一つの資料に示されているので、的確に読み取れるよう留意する。</p> <p>・気付いたことを、ワークシートに記入させる。</p> <p>・資料「国内生産台数と海外生産台数」を示して、2007年には、国内生産(1160万台)を海外生産(1186万台)が上回ったことを確認させる。</p> <p>社会事象を多面的・多角的に思考・判断する力</p> <p>・自分の意見をワークシートに記した後、隣同士やグループで話し合わせる。</p> <p>・車の価格には、原材料費の他、労働者への賃金も含まれることを知らせる。</p> <p>・貿易摩擦や賃金の国際比較など、考えるための適切な資料を準備しておく。</p> <p>・身の回りの工業製品の生産国を調べ、アジアを中心にした外国製品が多いことを確かめさせ、貿易によって生活が支えられていることを実感させる。</p> <p>社会事象を多面的・多角的に思考・判断する力</p> <p>・児童の実態に合わせて、ディベートが難しい場合は、シナリオを作成した上でディベートを行わせる。</p> <p>・ゲスト・ティーチャーから、現地生産の必要性和、国内産業の振興への配慮の話聞き、まとめとする。</p> <p>評価 自分の考えをもち、友人の意見を踏まえて考えを深めることが出来たか。</p> <p>・学習の感想をまとめ、交流させることにより、認識を更に深めさせる。</p>

「活用」を意識した授業改善（図画工作科・美術科）

1 小学校・2年・図画工作科「ぱたぱた・ぴこぴこ～動くおもちゃをつくろう～」

2 単元の目標

- 動く仕組みに関心を持ち、楽しく動くものを工夫しながらつくろうとする。
- 仕組みを生かして、つくりたいものを考えることができる。
- 発想したものが、より楽しめる作品になるよう、表現方法を工夫しながらつくることができる。
- 互いに交換しながら、作品を紹介したり、互いの作品の面白さや工夫などに気づくことができる。

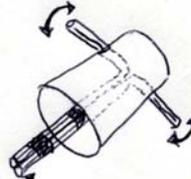
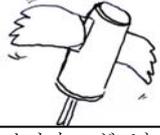
3 授業改善の指針

◎探究的な活動の中に習得、活用という視点を持ち、学習を習得、活用、探究という一体的なプロセスとしてとらえる。「見る（出会う）」「考える」「つくる」ことを一つの学習プロセスとして意識し、「活用」のなかで、基礎的・基本的な知識技能の習得し、資質能力を培う。

4 単元の指導計画

- ・動く仕組みを使って、おもちゃをつくろう ……1時間（本時）
- ・友達と一緒に動くおもちゃで楽しもう ……1時間

5 本時の展開

学習活動・主な発問	指導上の留意点・教師支援・目指す力
<p>1 動く仕組みをつくる</p>  <p>＜材料・用具＞ ストロー（各種）、色画用紙 紙コップ、はさみ、のり、 セロハンテープ、サインペンなど</p>	<p>・共通の材料で、動く仕組みを手順に沿って製作させることで、全員完成させる。</p> <div data-bbox="1021 913 1391 1025" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜思考・判断・表現＞ ①動く仕組みをつくる ②動き・形に合わせて考える</p> </div>
<p>2 仕組みの動きや形から、つくりたいものを考える。</p> <div data-bbox="239 1120 957 1198" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>この動く仕組みを使って、どんなものがつくれそうですか。動きや形を見て、考えてみましょう。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="239 1232 462 1456" style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>ストローが腕のように見えるから、お人形さんにしてみよう。</p>  </div> <div data-bbox="478 1232 702 1456" style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>ストローに紙を付けて、鳥の羽みたいにしてみよう。</p>  </div> <div data-bbox="718 1232 941 1456" style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>ストローに紙を付けて、耳にして、紙コップには、顔を描きたいな。</p>  </div> </div> <p style="text-align: center;">楽しいおもちゃができそうだよ</p>	<p>・どのようなものができそうか、想像をふくらませるために、各自の動く仕組みを実際に動かしながら取り組ませる。</p> <p>発想・構想の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発想を広げるために、動かしながら、眺めながら発するつぶやきをとらえ、意見として取り上げる。 ・低学年であるため、つくりながら、考えるという点にも留意し、あまり時間を掛けない。
<p>3 動く仕組みを生かして、楽しくなるよう工夫しながらつくる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="239 1523 462 1814" style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>ストローの腕のところに、旗をもたせよう。 紙コップに色紙で服を着せたよ</p>  </div> <div data-bbox="478 1523 702 1814" style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>紙コップの上のところに頭をつけて、かっこよくするぞ。</p>  </div> <div data-bbox="718 1523 941 1814" style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>毛糸でひげを、ボタンで目をつけたよ。</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="223 1825 462 1892" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">塗る・貼る</div> <div data-bbox="470 1825 710 1892" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">画用紙を揉んで塊にする</div> <div data-bbox="718 1825 957 1892" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">身近な材料を使う・接着する</div> </div> <div data-bbox="399 1892 766 1937" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>新たに習得する力</p> </div> <p style="text-align: center;">ミニステージ</p> <div data-bbox="239 1926 957 2060" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○つくりつつあるものを見たり、つくったものを見せ合い話し合ったりする。</p> <p style="text-align: center;">いろいろな楽しいおもちゃができたね</p>  </div> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<p>・様々な材料や用具を準備し、思いに合わせて、造形活動が広がるように環境を整える。</p> <p>創造的な技能の能力</p> <div data-bbox="1021 1720 1391 1832" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜思考・判断・表現＞ よりよい方法を考えながら、表現活動に取り組む</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いが見せ合うなど交流できるように、劇場のようなミニステージを設置しておく。 <p>鑑賞の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の考えた工夫したところをノートにまとめる。

「活用」を意識した実践例（理科）

1 学校種・学年・教科・単元名

中学校・2年・理科・「気象とその変化 ウ 日本の気象」

2 単元の目標

身近な気象の観察、観測を通して、気象要素と天気の変化の関係を見いだすとともに、気象現象についてそれが起こる仕組みと規則性についての理解を深める。

3 授業改善の視点

科学的な概念を活用して、根拠に基づいて考えたり説明したりする学習活動を充実させる。

4 単元の指導計画

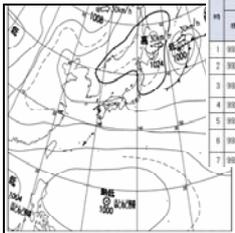
第一次 日本の天気の特徴を知ろう。

- ・各季節ごとの天候の特徴をまとめる。 . . . 2時間（習得）
- ・提示した天気図の季節を判定する。（本時） . . . 2時間（活用）

第二次 大気の動きと海洋の影響と関連付けてとらえる。 . . . 2時間（活用）

第三次 天気を予測してみよう . . . 1時間（活用）

5 本時の展開（活用を意識した展開部分は下線を引いて）

学習活動・主な発問	指導上の留意点・教師の支援・目指す力																																																																																																																																																																																																
<p>1 本時の学習内容を知る。</p> <p>5種類の天気図が、春・梅雨・夏・秋・冬のどの時期にあたるか、その特徴を多く挙げて考えよう。</p>  <p>気象庁</p> <table border="1" data-bbox="368 898 643 1081"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>気圧</th> <th>湿度</th> <th>風速</th> <th>風向</th> <th>雲量</th> <th>日照</th> <th>降水</th> <th>降雪</th> <th>霜</th> <th>霧</th> <th>氷点</th> <th>霜点</th> <th>露点</th> <th>視程</th> <th>日照</th> <th>降水</th> <th>降雪</th> <th>霜</th> <th>霧</th> <th>氷点</th> <th>霜点</th> <th>露点</th> <th>視程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>999.7</td> <td>999.1</td> <td>0.5</td> <td>23.7</td> <td>22.8</td> <td>28.4</td> <td>90</td> <td>4.8</td> <td>晴</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>999.8</td> <td>999.2</td> <td>1.2</td> <td>23.8</td> <td>22.2</td> <td>28.8</td> <td>90</td> <td>5.5</td> <td>晴</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>999.8</td> <td>999.2</td> <td>0.5</td> <td>24.8</td> <td>22.3</td> <td>28.8</td> <td>90</td> <td>4.7</td> <td>晴</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>999.4</td> <td>999.8</td> <td>3.0</td> <td>24.1</td> <td>22.4</td> <td>27.1</td> <td>90</td> <td>4.4</td> <td>晴</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>999.2</td> <td>999.8</td> <td>5.0</td> <td>23.8</td> <td>22.2</td> <td>28.8</td> <td>91</td> <td>2.4</td> <td>晴</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>999.2</td> <td>999.8</td> <td>11.0</td> <td>23.4</td> <td>21.5</td> <td>25.8</td> <td>91</td> <td>2.1</td> <td>晴</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>999.4</td> <td>999.8</td> <td>7.0</td> <td>22.4</td> <td>21.1</td> <td>25.0</td> <td>91</td> <td>2.3</td> <td>晴</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>＜提示資料＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示された天気図について、根拠となる特徴を挙げて、季節を推定する。 <p>◇ 春は、西から高気圧と低気圧が交互にやってくる。</p> <p>◇ 梅雨は、停滞前線ができ、悪天候の日が多くなる。</p> <p>◇ 夏は、南の小笠原高気圧が強くなり、南高北低型の気圧配置になる。</p> <p>◇ 秋は、秋雨前線や台風が現れ、高気圧・低気圧が続いてやってくる。</p> <p>◇ 冬は、北西の強い風が吹き、西高東低型の気圧配置になる。雪の地域がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気図や気象衛星画像などのデータを総合的に分析・解釈し、ワークシートにまとめる。 <p>2 分析したことについて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示資料を基に、MD法による説明活動を行う。 ・他のグループの考えを参考にして、自分グループの考え方について、再考する。 <p>3 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題に対する考えを発表する。 	種別	気圧	湿度	風速	風向	雲量	日照	降水	降雪	霜	霧	氷点	霜点	露点	視程	日照	降水	降雪	霜	霧	氷点	霜点	露点	視程	1	999.7	999.1	0.5	23.7	22.8	28.4	90	4.8	晴															2	999.8	999.2	1.2	23.8	22.2	28.8	90	5.5	晴															3	999.8	999.2	0.5	24.8	22.3	28.8	90	4.7	晴															4	999.4	999.8	3.0	24.1	22.4	27.1	90	4.4	晴															5	999.2	999.8	5.0	23.8	22.2	28.8	91	2.4	晴															6	999.2	999.8	11.0	23.4	21.5	25.8	91	2.1	晴															7	999.4	999.8	7.0	22.4	21.1	25.0	91	2.3	晴															<p>※ 天気図から季節を判断するための科学概念や判断基準を適用するための基礎的・基本的な知識や技能を整理させておく。</p> <p>◇ 天気記号・等圧線・風向・前線など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までに提示した、気象衛星画像や動画など、変化の様子が分かるような視聴覚教材を繰り返し映して、学習活動をサポートする。 ※季節ごとの気象衛星画像をまとめたデジタルコンテンツなどを活用する。 <p>・天気図を見て、特徴的な記号や図を多く挙げさせ、グループごとでまとめさせる。</p> <p>資料を読み取り、分析・解釈する力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象観測結果についても提示し、季節との関係を考えさせる。 ・実生活で感じている天気と、どのようにつながっているかを考えさせる。 <p>科学的な概念を使用して、考えたり説明したりする力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気図と気象衛星画像に現れた現象面とを照らし合わせて考えさせる。 ・ワークシートには、根拠のある記述に心掛けさせたい。 ・グループごとに作成した資料を提示させる。 ・発表用資料については、天気図や気象観測結果を入れ、その図の中にポイントとなる事項を書き込んだり、必要な図などを作成したりして、分かりやすい発表を心掛けさせる。 ・気象衛星画像と天気図の関係についても説明に取り入れさせ、まとめの「天気を予想する学習」につなげる。 <p>評価 根拠を明確にして、ワークシートをまとめ、説明することができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再考後、教師により解答を伝え、映像を用いて補足説明をする。 ・感想や意見を述べ合い、意見を交流させる。
種別	気圧	湿度	風速	風向	雲量	日照	降水	降雪	霜	霧	氷点	霜点	露点	視程	日照	降水	降雪	霜	霧	氷点	霜点	露点	視程																																																																																																																																																																										
1	999.7	999.1	0.5	23.7	22.8	28.4	90	4.8	晴																																																																																																																																																																																								
2	999.8	999.2	1.2	23.8	22.2	28.8	90	5.5	晴																																																																																																																																																																																								
3	999.8	999.2	0.5	24.8	22.3	28.8	90	4.7	晴																																																																																																																																																																																								
4	999.4	999.8	3.0	24.1	22.4	27.1	90	4.4	晴																																																																																																																																																																																								
5	999.2	999.8	5.0	23.8	22.2	28.8	91	2.4	晴																																																																																																																																																																																								
6	999.2	999.8	11.0	23.4	21.5	25.8	91	2.1	晴																																																																																																																																																																																								
7	999.4	999.8	7.0	22.4	21.1	25.0	91	2.3	晴																																																																																																																																																																																								

※MD（マーケティング・ディスカッション）法：発展的な学習を推進するためのグループ学習の一種。すべての子供が役割分担により他のグループに分かりやすく説明する過程を通して、子供が学習内容を再認識する。〔文部科学省「個に応じた指導に関する指導資料」参照〕

「活用」を意識した実践例（数学科）

1 学校種名・学年・教科・単元名

中学校・3年・数学科「標本調査」（7時間完了）

2 単元の目標

母集団から標本を取り出し、その傾向を調べることで、母集団の傾向を読み取ることができる。

<授業改善の指針>

数学のよさを実感させるために、生徒の「課題意識」と「主体性の持続」を重視する単元を教科横断的に構想した。（日常生活や社会で数学を利用する活動）

また、既習の知識・技能をできるだけ幅広く活用できる学習内容を準備し、説明活動、話し合い活動を中心に思考力・判断力・表現力をはぐくむことを大切に学習活動を組んだ。（数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道を立てて説明し伝え合う活動）

3 教科横断的な単元の構想【総合的な学習の時間】と【数学】

【総合】単元例「私たちにできること(環境)」10時間完了

課題把握 体験や資料などをもとに自分の課題をつかむ(2)

体験活動や資料などから課題意識をもつ。

情報収集 自分の課題をもとにアンケートを作成する(2)
アンケート内容を発表し、練り直す

課題解決のための具体的な提案に必要な情報を収集する。

情報整理 アンケート集計・整理・分析【数学】(2)

収集した情報を整理、分析したり、思考したりする。

思考交流 学級内発表(発表練習・ポスター作成・修正)(2)

考えたこと、気付いたことをまとめ、根拠を明らかにして表現する。新たな課題をもつ。

表現 発表会などでポスターセッションをする(2)

発信発展 地域に発信する(2)

4 数学科：単元の指導計画（7時間完了）

第一次 標本調査の必要性と意味を理解する。

4時間（習得）

第二次 簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向をとらえる。

1時間（習得）

身近な事象について標本調査を行い、問題を解決する。（本時2時間連続） 2時間（活用）

5 本時の展開

学習活動・主な発問	指導上の留意点・教師支援・目指す力
<p>1 問題把握【総合的な学習の時間で扱う内容】 (数学の時間では導入として触れる)</p> <p>日頃、自分が気に掛けている環境問題について、資料を収集し、整理、分析をして、問題解決に向けて〇〇祭で発信しよう。</p>	<p>・総合的な学習の時間の中で、環境問題について資料や情報から「自分にできること」を考え、アンケートにより分析した結果を下級生や地域に向け発信していくことを伝える。</p> <p>・班活動で、「ゴミの分別をしている人は、節電に心掛けている」や「ペットボトルのキャップを人助けのために集めている人は、食べ残しをしない」など仮説をた</p>
<p>(例) 環境問題についてのアンケートにご協力ください。()年()組 男・女</p> <p>1 あなたは、普段、ゴミの分別をしていますか。 1いつも 2ときどき 3あまり 4全く</p> <p>2 あなたは、鉛筆が短くなるまで使いますか。 1使う 2ときどき 3あまり 4なくす</p> <p>3 あなたは、生徒会のキャップ集めに意欲的ですか。 1とても 2まあ 3あまり 4全く</p> <p>4 あなたは、キャップを何個くらい寄付しましたか。()個くらい</p>	
<p>【アンケートの一例である。各班数問ある設問を集約して、全校生徒や保護者などを対象に実施する。】</p>	<p>て、それらの項目が調査できるアンケートを作成し実施しておく。</p>

<p>2 問題を解決する。【数学の時間で扱う内容】</p> <p>(1) アンケートの結果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作りたい資料を見通して、項目ごとに分けて集計した表を確認する。特に仮説の検証に関わる項目に留意する。 <p>(2) コンピュータを使って資料を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データを入力し、データベースを作る。 ・必要な資料に応じて、階級の幅や目盛りの大きさ、グラフの種類を検討する。 <p>(3) 資料を分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標本調査と全数調査の違いを考える。 「学級全体」と「学年全体」の比較 「学年全体」と「学校全体」の比較 等 ・実態を予測する。市町全体の予測をする。 ・自分のたてた仮説の検証をする。 <p>3 分析したことについて話し合う。</p> <p>(1) 仮説を検証したことを中心に発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルキャップの収集に協力的な人は食べ物を残さない傾向がある。 ・エコカーに乗っている人とスポーツカーに乗っている人の節約意識に差はない。 ・鉛筆は使わない人が多く、資料にならない <p>(2) 発表内容について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分からない点を質問する。 ・気付いたことに意見する。 ・標本数やグラフの種類など適切か、根拠はあるかなど検討し合う。 <p>4 本時のまとめと今後の課題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇祭でポスターセッションをすることを確認する。 ・本時に行った資料の整理、分析を修正し、ポスターにまとめて発表する意欲を高める。 ・具体的な提案をすることを確認する。 ・市町村長や議会、区長さんへの提案や駅前で啓発など発信方法について見通す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ室を使用する。 ・集計させておく。 ・仮説を検証し、問題解決に向けた取組を具体的に発信していくことを確認する。 ・仮説検証ができるよう、集計方法に留意させる。 <p>○習得した知識・技能を活用する力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標本調査の単元であるが、標本から母集団の傾向を分析することだけでなく、1年生で学習した度数分布やヒストグラム、更には小学校での円グラフ、棒グラフなど、適切な資料を選択させ、より説得力のある資料とさせる。 ・学級と学年、学校の資料比較で検討させる。 ・保護者にもアンケートをとることで住んでいる町の傾向が予測できることも感じ取らせる。 <p>評 標本調査のよさを実感し、母集団の傾向をつかむことができる。</p> <p>○言葉、図、式、表を使って説明する力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉だけでなく、図や表を用いて相手に分かりやすい発表に心掛けさせる。そのために、調査対象数や整理に活用した表、度数や割合に関わるグラフの説明を順序よく説明させる。 ・客観的に分析させる。時には調査結果が分析資料にならない場合があることも実感させる。 ・グラフの種類、データ数など批判的に分析しながら意見を交換させ、自分の見方や考え方を練り直し、より説得力をもたせる。 <p>評 自分の課題について、分かりやすい資料を用いて、根拠を明確にして説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターを作成させ、総合的な学習の時間（〇〇祭）で発表させる。 グラフや文字の構成、よく分かる配色などに加えて、問題点や具体的な取組を強調するために、表情豊かなキャラクターを創作し表現させる。 ・〇〇祭で優秀だった発表については、校区や市町村へ具体的に提案することを意識させる。
---	---

高等学校学習指導要領改訂のポイント

1 国語

(1) 改訂の基本的な考え方

ア 国語科については、その課題を踏まえ、小学校、中学校及び高等学校を通じて、言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善を図る。

特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する。

そのため、現行の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」からなる領域構成は維持しつつ、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることに資するよう、実生活の様々な場面における言語活動を具体的に内容に示す。また、現行の〔言語事項〕の内容のうち各領域の内容に関連の深いものについては、実際の言語活動において一層有機的にはたらくよう、それぞれの領域の内容に位置付けるとともに、必要に応じてまとめて取り上げるようにする。

また、〔言語文化と国語の特質に関する事項〕を設け、我が国の言語文化に親しむ態度を育てたり、国語の役割や特質についての理解を深めたり、豊かな言語感覚を養ったりするための内容を示す。

イ 子どもたちの発達の段階を踏まえた学習の系統性を重視し、学校段階・学年段階ごとに、具体的に身に付けるべき能力の育成を目指し、重点的な指導が行われるようにする。その際、小学校においては日常生活に必要な国語の能力の基礎を、中学校においては社会生活に必要な国語の能力の基礎を、高等学校においては社会人として必要な国語の能力の基礎をそれぞれ確実に育成するようにする。

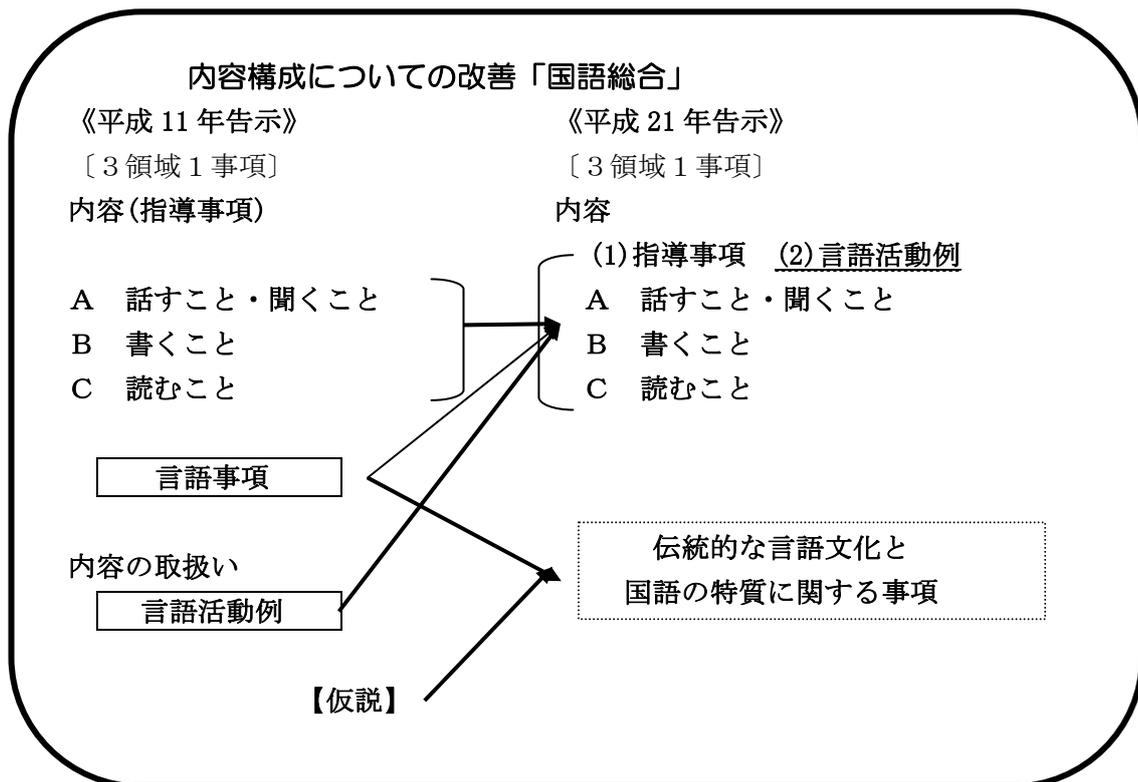
ウ 古典の指導については、我が国の言語文化を享受し継承・発展させるため、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する指導を重視する。

漢字の指導については、実生活や他教科等の学習における使用や、読書活動の充実に資するため、確実な習得が図れるよう、指導を充実する。書写の指導については、実生活や学習場面に役立つよう、内容や指導の在り方の改善を図る。

敬語の指導については、人間関係を円滑にし、日常の言語生活を豊かにするため、相手や場に応じた言葉遣いが適切にできるようにすることを重視する。言葉のきまりの指導については、系統的に指導するとともに、実際に文章を書いたり読んだりするときなどに役立つよう、指導の改善を図る。

読書の指導については、読書に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするため、読書活動を内容に位置付ける。

教材については、我が国において継承されてきた言語文化に親しむことができるよう、長く読まれている古典や近代以降の作品などを、子どもたちの発達の段階に応じて取り上げるようにする。



「国語総合」の領域等との関連からみた各選択科目の指導事項

◎は、各選択科目において、より指導の中心となるもの

	A 話すこと・ 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	〔伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事 項〕
国語総合	◎	◎	◎	◎
国語表現	◎	◎		○
現代文A			○	◎
現代文B	○	○	◎	○
古典A			○	◎
古典B			◎	○

エ 言語活動の充実

各科目及び領域の内容の(1)に指導事項を示すとともに、これまでは内容の取扱いに示していた言語活動例を内容の(2)に位置付け、再構成している。これは、内容の指導に当たって、(1)に示す指導事項を(2)に示す言語活動例を通して指導することを一層明確にするとともに、各教科・科目等における言語活動の充実に資するためである。なお、内容の(2)に示したものは、中学校までも含めて既に指導していることである。

オ 言語文化に関する指導の重視

共通必履修科目である「国語総合」に、小学校及び中学校と同様に〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を設けるとともに、我が国の伝統と文化、とり

わけ言語文化に対する理解を深めることを主なねらいとする科目「現代文A」、「古典A」を設けている。

カ 学習の過程と系統性に配慮した内容の改善

小学校及び中学校では、学習の過程や各学年段階の指導内容の系統性に配慮した改訂がなされている。高等学校においても、中学校までの指導との円滑な接続を図り、発展的に指導できるよう、**学習の過程や系統性**に配慮して内容を改善している。

学習の過程を明確にすることは、**学習意欲の向上**や**学習習慣の定着**を図るために、学習の見通しを立てさせたり学習したことを振り返らせたりする指導につながるものである。また、**学習の系統性**は、**高等学校段階の学習に円滑に移行**し、必修修科目の内容を十分に理解するために、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための指導について配慮することと関連している。

キ 読書活動の充実

読書に関する指導については、生涯にわたって読書に親しむ態度を育成することや、情報を使いこなす能力を育成することを重視して改善を図っている。

ク 各科目の要点

(7) 「国語総合」

- ・ 教科の目標を全面的に受け、総合的な言語能力を育成することをねらいとした**共通必修科目**である。
- ・ 小学校及び中学校と同様に、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び**〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕**の3領域1事項から内容を構成している。
- ・ 話すこと・聞くことを主とする指導に15～25単位時間程度、書くことを主とする指導に30～40単位時間程度を配当する。
- ・ 読むことの指導では、読む能力を育成するとともに、読書の幅を広げ、読書の習慣を養うことに配慮している。読むことの指導のうち、古典と近代以降の文章との授業の割合は、おおむね同等とすることを目安とし、古典における古文と漢文との割合は、一方に偏らないようにしている。
- ・ 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕では、我が国の文化と外国の文化との関係に気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げることを示すとともに、従前、〔言語事項〕として示していたことも取り上げている。
- ・ 各領域において、実践的な指導の充実が図られるよう、話し合いや討論、発表をする、説明や意見の文章、随筆を書くなどの言語活動を例示している。

(イ) 「国語表現」

- ・ 話すこと・聞くこと及び書くことを中心として内容を構成している。
- ・ 目的や場に応じて言葉遣いや文体を工夫すること、国語における言葉の成り立ち、表現の特色や言語の役割の理解を深めることを取り上げている。
- ・ 討論する、解説や論文をまとめる、小説や実用的な文章を書くなどの言語活動を例示している。

(ウ) 「現代文A」「現代文B」「古典A」「古典B」

- ・ 科目の名称に付されている「A」「B」は、学習の順や、発展の程度ではなく、科目の性格の違いを示している。

現代文A

現代文B

<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語文化に対する理解を深める ・ 読書に親しむ態度を育成 	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み、思考し、表現する能力を高める ・ 読書活動の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語文化について探究する 	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を読む能力を高める ・ 表現する能力を高める
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を読み比べて話し合ったり批評したりする 等 	言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を追究し、成果を発表したり編集したりする 等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 近代以降の様々な文章 ・ 特定の文章や作品，文種や形態でまとまりのあるもの中心 	教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近代以降の様々な文章

古典A

古典B

<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統的な言語文化に対する理解を深める ・ 生涯にわたって古典に親しむ態度を育成 	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典を読む能力を高める ・ 古典についての理解や関心を深める
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語文化について探究する ・ 古文と漢文のいずれか一方を教材とした指導でも可 	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読む能力を高める ・ 古文と漢文の両方を指導 ・ 文語文法も指導
<ul style="list-style-type: none"> ・ 音読，朗読，暗唱をする ・ 古典を読み比べて話し合う 等 	言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を追究し，成果を発表したり文章にまとめたりする 等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の文章や作品，文種や形態でまとまりのあるもの中心 ・ 古典に関連する近代以降の文章を必ず含める 	教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語文化の変遷についての理解に資するもの

高等学校学習指導要領改訂のポイント

2 数学

(1) 改訂の基本的な考え方

ア 算数科，数学科については，その課題を踏まえ，小・中・高等学校を通じて，発達の段階に応じ，算数的活動・数学的活動を一層充実させ，基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け，数学的な思考力・表現力を育て，学ぶ意欲を高めるようにする。

イ 数量や図形に関する基礎的・基本的な知識・技能は，生活や学習の基盤となるものである。また，科学技術の進展などの中で，理数教育の国際的な通用性が一層問われている。このため，数量や図形に関する基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る観点から，算数・数学の内容の系統性を重視しつつ，学年間や学校段階間で内容の一部を重複させて，発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）による教育課程を編成できるようにする。

ウ 数学的な思考力・表現力は，合理的，論理的に考えを進めるとともに，互いの知的なコミュニケーションを図るために重要な役割を果たすものである。このため，数学的な思考力・表現力を育成するための指導内容や活動を具体的に示すようにする。特に，根拠を明らかにし，筋道を立てて体系的に考えることや，言葉や数，式，図，表，グラフなどの相互の関連を理解し，それらを適切に用いて問題を解決したり，自分の考えを分かりやすく説明したり，互いに自分の考えを表現し伝え合ったりすることなどの指導を充実する。

エ 子供たちが算数・数学を学ぶ意欲を高めたり，学ぶことの意義や有用性を実感したりできるようにすることが重要である。そのために，

- ・数量や図形の意味を理解する上で基盤となる素地的な学習活動を取り入れて，数量や図形の意味を実感的に理解できるようにすること
- ・発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）による教育課程により，理解の広がりや深まりなど学習の進歩が感じられるようにすること
- ・学習し身に付けたものを，日常生活や他教科等の学習，より進んだ算数・数学の学習へ活用していくことを重視する。

オ 算数的活動・数学的活動は，基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けるとともに，数学的な思考力・表現力を高めたり，算数・数学を学ぶことの楽しさや意義を実感したりするために，重要な役割を果たすものである。算数的活動・数学的活動を生かした指導を一層充実し，また，言語活動や体験活動を重視した指導が行われるようにするために，小・中学校では各学年の内容において，算数的活動・数学的活動を具体的に示すようにするとともに，高等学校では必修科目や多くの生徒の選択が見込まれる科目に「課題学習」を位置付ける。

(2) 改訂の主なポイント

高等学校においては，目標について，高等学校における数学学習の意義や有用性を一層重視し改善する。また，科目構成及びその内容については，数学学習の系統性と生徒選択の多様性，生徒の学習意欲や数学的な思考力・表現力を高めることなどに配慮し改善する。

ア 科目構成は，「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」，「数学B」及び「数学活用」とする。

- イ 「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」は，内容を見直し，次のような内容に再構成する。
- 「数学Ⅰ」は，高等学校数学における基礎的・基本的な知識や技能及びそれらを活用する能力などを身に付けることをねらいとし，中学校数学の内容との関連などを考慮して，例えば，数と集合，図形と計量，二次関数などの内容で構成する。
- 「数学Ⅱ」は，数学的な資質・能力を伸ばすことをねらいとし，「数学Ⅰ」に引き続く科目として内容の系統性に配慮して，例えば，いろいろな式（式と証明・高次方程式など），図形と方程式，三角関数などの内容で構成する。
- 「数学Ⅲ」は，数学に対する興味や関心から，より深く数学を学習したり，将来数学を専門的に扱うために必要な知識・技能を身に付けたりすることをねらいとし，例えば，極限，微分法，積分法などの内容で構成する。
- ウ 「数学A」及び「数学B」は，生徒の能力・適性，興味・関心，進路などに応じていくつかの項目を選択して履修する科目とし，例えば，確率，数列，ベクトルなどの内容で構成する。
- エ 「数学活用」は，「数学基礎」の趣旨を生かし，その内容を更に発展させた科目として設け，数学と人間とのかかわりや，社会生活において数学が果たしている役割について理解させ，数学への興味や関心を高めるとともに，具体的な事象への活用を通して数学的な見方や考え方のよさを認識し数学を活用する態度を育てることをねらいとする。
- オ 「数学Ⅰ」及び「数学A」には，実生活と関連付けたり，学習した内容を発展させたりして，生徒の関心や意欲を高める課題を設け，数学的活動を特に重視して行う課題学習を内容に位置付ける。
- カ 「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」はこの順に履修するものとする。また，「数学A」は「数学Ⅰ」と並行履修またはその後の履修，「数学B」は「数学Ⅰ」の後に履修するものとする。